

その人、 田池留吉 第三卷
(ホームページより)

この冊子は、二〇一〇年八月から十一月までに、田池先生と塩川香世さんのホームページ (<http://www13.ocn.ne.jp/~utamate/>) に掲載されたものです。

一、二五〇年後、私は、黒人の女性としての肉を持ってきます。アメリカの地に生まれてきます。その私を心で受け入れてくれた母の意識に思いを向けてみます。

私は、この肉体を望みました。私の意識の世界を一〇〇%発信するために、私は、あなたにこの肉体を望みました。

はい、二五〇年後を思う時、母の思いが伝わってきます。

お母さん、心の中のエネルギーをしっかりと発揮するために、私に肉体をください。これがあなたにお願いする最後です。

私は、お母さん、あなたのお腹から喜びで生まれてまいります。母の温もりを心に秘め、私は、アルバートとともに、この地球に最後の肉を持ちたいんです。どうぞ、私に肉をください。私の中の喜びを、肉という形を通して、発信してまいります。私はそのように母に願っているんです。

その時の思いを今、心に感じています。

二五〇年後のアメリカの地。人の心はもちろん、世の中すべてが荒れ狂っている中に、私は肉を持ってまいります。

自分の境遇はとても厳しいものを選びます。この心の中のエネルギーを一〇〇%発信するためです。私はアルバートの肉とともに、喜びを伝えてまいります。今、心に伝わってくる思いです。田池留吉の肉を通し、アルバートの思いを感じています。

田池留吉の口から発するエネルギー、異語を通して、私の心の中に真っ直ぐに届きます。アルバートの思いが私の中に届きます。田池留吉、その肉は、私の中ではすでにアルバート。私は、これからさらに、田池留吉、アルバートの世界を、波動として、このホームページを通して流してまいります。

二五〇年後に生まれてくる黒人の女性として、今、ここに肉を持つ日本人の肉を通し、ともに歩いていこうというメッセージを、このホームページを通して、流してまいります。

どうぞ、心を田池留吉、アルバートの世界に向けてまいります。田池留吉、アルバートの世界を私は、皆さんとともに、ともに感じていきたいです。

私は、今ここに伝えます。

ともに、ともに、次元移行を目指し、心を向けてまいります。

二五〇年後に向け、あなたもそしてあなたも、それぞれの転生があると思いますが、私

達との再会をどうぞ心に信じ、今世の時間を大切にしていきましょう。

二、今世、田池留吉という人物には大変お世話になりました。彼なくしては、私自身が生まれてきた意味は、とても解き明かすことはできませんでした。なぜ、人は苦しい転生を繰り返さなければならぬのか、その疑問に明確に答えてくれた人が、田池留吉という人物でした。

まもなく、「その人、田池留吉」という題名の本が発刊されます。その中でも書き記していますが、私は、彼を教祖、指導者等というように仰ぎ見て、教えを請うてきたではありません。

私は私自身を知りたかったのです。だから、自分の中のエネルギーを、肉を通して確認できた、それを引き出してくれた田池留吉の肉、その意識には感謝しかありません。ようやく、私は、私の中の思いを知ることができました。もうこれで間違いはありません。自分の中ではつきりと道が見えた私がすべきことを、今世の肉を通して知ったのです。こんなに嬉しいことはありません。

私は、二五〇年後、田池留吉の来世の肉、アルバートとともに肉を持つてくる意識です。田池留吉の意識が肉を持つてくるから、私も同時期に肉を持つてきます。

残念ながら、今現在、私自身のその時の名前はつきりしません。

ふっと自分の中から出てきた時に、またご紹介できるかもしれません。

しかし、黒人の女性ということには違いはありません。極貧の中に生まれてくることも、そして肉的には、その誕生は手放して喜んでもらえる状態ではないことも確かです。その辺の事情から、私自身の名前が明確ではないのかもしれないかもしれません。どちらにしても、私自身は、名前などどうでもいいと思っています。

二五〇年後の肉のポイントは、黒人、極貧、差別。

その中から、いったい人間とは何か、人生とは何か、それを私は私に問う時間が必要なのです。肉の悩み苦しむ時間が必要なのです。

黒人といっても真っ黒ではないですが、黒人は黒人です。様々な局面でそれがネックとなっていく、そんな中で、私は、アルバート、つまり田池留吉の意識との出会いがあります。

三、私の中は、次元移行に向けて驀進中です。私の中、もちろん、過去も来世も今という私に一つです。

もちろん、過去というのは三次元より前ということですよ。

心に、田池留吉、アルバートの宇宙を感じてくれば、宗教、精神世界、そのパワーの世界というものが、どんなにちっぽけなものか心で分かってきます。頭ではありません。心で分かれます。

くだらない世界に縋り、そこから生きる知恵と勇氣、パワーを引き出そうとする心の貧しさに気付きます。

自分をないがしろにしてきた愚かさを、はつきりと感じます。

そういうことが自分の中にはつきりと見えてこない限り、田池留吉が伝えようとしていることは、分からないと思います。

肉でいくらでも話は聞けます。しかし、自分の意識の世界を変革していくのは、田池留吉ではありません。自分ですよ。

私は、自分という真実を知るために、今世生まれてきたし、二五〇年後もまた肉をいただきます。田池留吉そしてアルバートという意識の世界と一つであることを確認、確信する

ことが私の喜び、私の中の私はそう伝えてきます。

そのことを達成することなくしては、私の未来はない。その思いのもとに、私の今世があり、私の来世があります。

四、今、私は幸せです。アマテラスの国日本に、今世肉を持ち、アマテラスとともに心を見つめてきました。日本人としての肉を持ってきてよかった、正解でした。日本人としての誇り云々ということではなくて、私の中のアマテラスとともに肉を持ってきてよかった、幸せ、喜びです。

遠い過去から、アマテラスとともにこの三次元にやってきて、色々な場所に転生の機会を持ちましたが、やはりアマテラスの国日本で、三次元最終段階に突入でした。

そして、私の心はずでに、この日本の国を離れています。やがて、アマテラスの象徴というべきところから、喜びのエネルギーが噴き出し、そこから総崩れの状態になっていくでしょう。

私は、今の肉を置いてから、アメリカに転生するまでの間、肉を持ちませんが、私は私

の学習があります。そのことを視野に入れながら、今という時を過ごしています。過去の私が未来を切り開き、未来の私が過去をいざなっていく、そんな喜びの歩みをもに続けているような感覚を、瞑想の中で味わっています。

五、私の中には、伝えたい思いが山ほどあります。いずれ私はそれを何らかの形にしていくでしょう。必ずそのようになってきます。それが意識の流れだからです。今世の私、来世の私、そしてもちろん過去からの私、すべてが一丸となって、一体となって真実へ突き進んでいくエネルギー、そのエネルギーが私自身だと感じています。

私は、田池留吉、アルバートそのエネルギーと一つです。意識の世界の私には、その感覚しかありません。

今世、出会いがあったのです。すごい出会いでした。本当にすごい出会いでした。田池留吉とともに、宇宙とともに、今世、学ばせていただいたことは本当にすごいことでした。

田池留吉の中から、アルバートが語ってきます。

本当にありがとう、ありがとう。心を一つにして、ともに、ともに進んでいきましょう。私は本当に幸せです。喜びです。ともに存在していることを感じています。宇宙へ思いを向け、宇宙とともに歩いていく喜びをともに感じていきましょう。そして、時が来れば再びともに肉を持ち、この喜びのエネルギを存分に発信していきましょう。

今世は、喜びの幕開けです。そして、これからの時間、本当に嬉しい、楽しい、喜びの時となりましょう。

六、UTA会※1のホームページのメッセージ70を読んでいたただけでしょうか。

あなたは、母の温もりを心に感じていますか。

私は心を感じ心を広げ、そして、宇宙に向けて瞑想を続けています。

宇宙を思う喜びを心に感じていきます。心は広がっていきます。

私はその意識の世界を心に広げながら、これからの時を通過していきます。

肉の別れと肉の出会いを転機にして、真実へと歩んでいける喜びを感じています。

何千、何万、いいえ、数え切れないほどの母の意識と出会ってきた私達です。その心の

記憶をどうぞ蘇らせてください。人間の心の世界、意識は地に落ちています。他力の道一筋に生きてきた心、その意識の世界がどんどん現象化してきます。狂った人間の心の世界が露呈してくるのです。解決策を模索していきます。しかし、母の温もりを、それぞれが本当に心に蘇らせていく以外に、真の解決策はありません。

人間は自分を救えないのです。自分が地獄なのに、平和な世の中など実現するはずもありません。

どうぞ、地獄の中に苦しみ喘いでいる意識達に聞いてみてください。自分達は救われたいから肉を切望した、そんな心からの声をしっかりと聞いてみてください。

※1 (UTA会のホームページのメッセージ70)

まずはゼロ歳の瞑想がきちんとできること、母を思うことが無条件に嬉しい、幸せ、まずはそこからでしょう。

それを飛ばしては何も始まりません。

日々の生活のリズムの中で、淡々と瞑想を続けていくことです。

心を自分の次の転生に繋ぐこと、それを最重要課題として、今世の残された時間を大切にさせて頂いてください。

次元移行の軌道に一人でも多くの人が乗れるように、田池留吉、アルバートはいつまでも待つているでしょう。

他力の道ではなくて、自己確立の道、真に喜びの道の一步を歩み出してください。

七、瞑想をして、心が広がっていくとき、私は、今のこの肉体を思います。肉体細胞に自然と思いが向いています。ともに存在していることが嬉しいです。

今、私は確かに身体的に不調和を感じていません。全く問題はないかと言えばそうでもないけれど、とにかく私は、今のこの肉体細胞とともに存在していることが嬉しいです。

心、意識の世界は申し分ありません。意識の流れの軌道に乗せるまで、自分の軌道が安定飛行を辿るまで、私は、捨て身、決死の覚悟、猪突猛進、そんな言葉が浮かんでくるような学び方をしてきました。

学びをするために生まれてきた、田池留吉の意識の世界を学ぶために生まれてきた、そ

のためにすべてをその照準に合わせてきた、心を見ていく中で、この思いが私をぐんぐん引っ張っていききました。

私は、それは自分の過去であり未来であることを心に感じています。まさに一丸となって、真実の自分により近づいていくパワーを今、感じています。

今は、日々の生活の中で淡々と粛々と学びをしています。瞑想が主です。そうできる今の環境に感謝しています。肉を持つている間は、生活のリズムを整えながら、瞑想をする時間と空間を楽しんでいけることを喜んでいます。

自由に大きく広がっていく意識の中で、人間の心に宿る他力のエネルギーを感じながら、その声を聞きながら、私は、しかし、真っ直ぐにメッセージを発信していける喜びを感じています。

八、私は、「その人、田池留吉」の本にも書きましたが、田池留吉の世界は特別な世界ではありません。特別に選ばれた人達が特別な世界を学ぶということではありません。

田池留吉の世界に触れることは、確かに素晴らしいことです。千載一遇のチャンスだと

私は感じています。しかし、それもしつかりと自分の道が見え、その道をひたすらに進んで
いつているという実績があればこそ、そう言えるのであって、またそう感じるからこそ、そ
のチャンスを活かせるのです。

ただ単に学びに集って来たから、田池留吉の肉と関わっているから、それだけでは、殆
ど何も意味はありません。

話を聞いて、少しは生き方の参考になるかもしれませんが。しかし、その程度です。自分
の世界を大きく転回させ、変革させていくことは無理なことです。

生き方の参考というのはあくまで肉の話です。

田池留吉の世界を学ぶというのは、意識の世界の変革にあります。そして、それは、そ
んなに簡単なことではありません。話を聞いて分かる世界のことならば、誰も苦勞はしまし
ゃん。

他力の心、他力のエネルギー、それを心に膨らませてきた自分と真向かいになり、その
世界をしつかりと自分の心で受け止め、そのエネルギーとともに存在していける喜びに目覚
めない限り、真の喜びは分かりません。ということが、なかなか分からないのです。

次の転生に繋ぐ。これをどうぞ、あなたの心で思ってみてください。

自分を繋いで、次元移行の軌道に乗せていけるのか、どうぞ、その一点に絞って、ご自分の今世の学習をしていってください。

九、日常のやるべきことはきちんとこなして、そして、一番大切な瞑想を淡々と繰り返す、そして一日が暮れていく。平々凡々ながらも、これが自分を本当にあるべき方向に導いていくことだと実感しています。

土台を変えれば、そうです、あとは淡々と一日、一日を喜びながら、楽しみながら過ごしていけばいい。中の私の思いと一致した生き方こそが、本当の生き方でした。そして、それは永遠に続いていく幸せを伝えてくれています。

自分を見つめ、自分を変える、つまり自分のエネルギーの質を変えていくために、自分に肉を持たせた思い。その思いに触れ、その思いを心に広げていけばいくほど、意識の世界はすごいと感じます。本当の自分の思いはすごいです。

この世もあの世も何もない。あるのは意識だけ。意識の世界があるだけ。すべては自分。すべては一つ。一つしかない世界。今日もそのようなことを感じながら、瞑想を続けています。

一〇、今、肉を持って自分を見て感じていけることが何よりの幸せ、喜びです。

自分が本当に優しいから、本当に温もりだから、今という時間と空間を用意しているのです。

心が外に向いていれば、つまり肉を本物としている中においては、そんなことは全く感じられないです。

すでに喜びと幸せの中にあるのに、それが分からないことが最大の不幸でした。

自分が優しさであり、温もりであり、安らぎ、癒しであるにもかかわらず、そういうものを自分以外に求めていくことが、最大の過ちでした。

私は、そのような過去とは決別しています。今という一点が私の意識の世界を変えました。その実感が私にはあります。だから、二五〇年後に肉を持つ意味が、これまでとは全く違うことを感じています。

今世、肉を持って、田池留吉、アルバートの意識、そして肉とともに学習できましたこと、本当にありがとうございます。私にはありがとうございますしかありません。心からそう思う思います。

すべては意識の世界の計らいでした。喜びに帰っていく意識の計らいを感じています。

一一、田池留吉は、自分の中のエネルギーを感じていくことが、どれだけ幸せであり、喜びなのか、懇々と伝えてくれました。

ともに心を見ていく幸せと喜びを伝えてくれました。

自分を知れば知るほど、自分が広がっていくことを伝えてくれました。

本当にその通りでした。

温かい温もり、広がり、そして力強さ、そのエネルギーの世界の素晴らしさを伝えにきてくれたのでした。

田池留吉の世界を真向かいから受け止めていけば、そこには、ただ今あることの喜びと幸せだけが、確実なものとして心に感じられます。

心、心と言いながら、心が何であるか分からなかった私達でした。

心はエネルギー、そしてそれが自分達。その自分達、つまりエネルギーを感じそして知っていくために、それぞれの人生があったのです。

肉という形を持つ中で、自分のエネルギーを感じて、そして、ただ感じるだけではなくて、そのエネルギーをいかに本来のエネルギーに変えていくか。そのためには、本来のエネルギーというものを、また自分の心で感じ知っていくことが必要。というふうはこの学びを辿っていけば、やはり元に戻るのです。つまり、温もりを自分の中に思い起こすこと、それをなくして、何にも始まらないということ。まずそこからスタートです。

一二、自分を変えていこう、本当の自分に蘇っていこうという自分の中の切実な声、その思いに出会うために、それぞれの計画を立ててきました。

その自覚があるかないか、本当にその点について敏感であるか、それが今世の別れ道でもあるし、これからの転生においてもそうなっていくでしょう。

私達は、人が生きていく道を学んでいるものではありません。そういうことは、自分の心の叫びを聞き、正しい方向に瞑想を積み重ねていけば、人としてどうあるべきかなんていうことは、自ずと分つてきます。

学びの道筋はすでにしっかりとついています。次元移行を目指して意識の流れは粛々と

流れています。その完成のために、二五〇年後の転生があることはすでに明らかになっています。

その次元移行の流れに自分を乗せるべく、それぞれに様々なシナリオを描いていくことをお知らせしています。どうぞ、その思いに素直になって、己という思いを見てください。

無限の広がりの中にある喜び、今世、その幕開けができたことが本当に嬉しいです。

一三、喜びの幕開けの場に、この日本の国を選びました。アマテラスの国、日本を選びました。ここでこの地で、それぞれの環境の中で、アマテラスとともに苦しみ抜いてきた心を見るために、今という時があるのです。

田池留吉の意識が肉を持ち、二十年に及ぶセミナーを続けてくださったこと、ゆめゆめ軽んじないでください。

その意味をその意義をしつかりと心に叩き込んでください。

今世、日本の国でセミナーが開催されたことに、非常に大きな意味があるのです。それは分かる人には分かります。

ゼロ歳の時の瞑想から始まって、田池留吉に心を向ける瞑想から自分が培ってきたブラツクの世界に向ける瞑想、そして、宇宙へ思いを馳せる瞑想、これらを淡々とこなしていけば、それぞれの心で分かります。

今は、学びももうすでにそのようなところに来ています。

未だに夫が、妻が、子供が、お金がなどと言つて、グズグズして一向に一步を歩み出せない人達も、もちろんたくさんおられると思いますが、私はすでに何度も言っていますように、ただひたすらに意識の流れの遂行だけに心を向けています。

これから二五〇年の時間を経て、私達との出会いがある意識達の存在に、心を向けています。今世、セミナーという時間と空間を用意して学ばせていただいたのも、意識の流れの一環です。その一環に立ち会えたことを喜んで、それぞれのこれからに繋いでいってください。

一四、繰り返し伝えます。田池留吉の世界は特別な世界ではありません。自薦、他薦のチャネラーと思われてきた人達だけが分かる世界でも何でもありません。思い出してください。みんながチャネラーなんです。

宇宙と言われても私にはさっぱり分からない、そう言ってしまうえば、すべてがそこでストップです。

そうではなくて、ただ素直にゼロ歳の時の瞑想を淡々とやっていけばいいんです。やらずに、あるいは中途半端のままにしておくから、宇宙とかUFOとか次元移行とか出てくる、この学びが何か自分から遠いところに感じてしまうのです。

もちろん、宇宙、UFO、次元移行、それらはすべて自分の心に響いてくる世界のことです。感じられない、響いてこないものを感じたと言ってみても空しいだけだし、だからそういう状態の人は、ゆっくり焦らず自分のペースで学んでみてください。

私とあなたは同じです。私を感じているものはあなたもいずれは心に響いてくることです。しかし、その時、大抵の人が陥る穴があります。少々感じたものを、誇張してしまう心癖です。誇張しているとは思わずに気付かずに、昔からの心癖をまたそこで膨らませていつてしまうということなのでしょう。

それではいつまでたっても一歩が歩み出せない、どんなに何を感じても、その感じた世界には、やがてズレが生じてくる、そのことだけを心に留め置いて、自分の学びを淡々としてください。

本当に心から喜びを分かち合えることを待っています。己を前に出して、田池留吉、アルバートと言っても私には分かりません。感じている世界が違っていると私には分かりません。

一五、私は、田池留吉の世界を学ぶために今ここにいます。こうして肉を持たせていただいています。私の今世はみんなそこに照準を合わせてきました。

肉を持って人として生きるという意味が、これまでの地球上における転生とは決定的に違うことを知りました。

一人の人間として、あるいは一人の女性としてこうあれば幸せ、喜びだという思いが、全く違っています。

来世の肉は、まさにこの思いを引き継ぎ、本来の私の思いを強烈に鮮明に出していくシナリオが待っています。

本当に待ち遠しいです。だからこそ、私は私の準備を入念に整えていきます。私の勉強をこれからも淡々とやり続けるだけです。

今世、田池留吉の肉との出会いと別れを転機に、私は私の学びをしていけるのがただだ

だありがたいです。

学んでください、ともに行きましよう、いつもそう伝えてくれている限りない優しさの中にあることを感じ、本当に嬉しい、本当にありがとう、それしかありません。

一六、田池留吉の世界に心を向け、私の宇宙を思います。

心に向けていけば、喜びが大きくなっていきます。私の心の中に大きな、大きな喜びが広がっていきます。この三次元にやってくる前の私を感じています。たくさんの宇宙を感じています。たくさんの仲間達がいいます。私の心の中にたくさんの仲間達がいいます。私を呼んでいます。田池留吉、アルバートに心を向けることを伝えてくれたことを喜んでいきます。

はい、とても嬉しいです。心の中の宇宙です。宇宙は広い。苦しみから喜びへ変わっていく転換期に、私は肉を選びました。この肉を通して、私の中の宇宙に伝えたかった。喜びへ帰ろう。喜びを私達は忘れてきました。私達のふるさとへ帰ろう。私はそう呼びかけたかった。だからこの肉を選んできました。田池留吉に心を向けられるように、すべてを整えて

きました。ああ、私は幸せです。一つの肉を持ち、私は私の中を感じています。次元を超えて私は存在します。

はい、この中にすべてがありました。心の中にすべてがありました。

私は心、意識。その広がり、温もり、安らぎ、温かな温もりの中に私はありました。それを教えてくれたのは、田池留吉の肉、そしてその意識。肉を通して伝えていただいた事実。その事実を私は心の中に広げています。ありがとうございます。

ああ、私はともに歩める意識。ともに歩いていく意識達を、たくさん、この心の中に携えています。私の未来はここにありました。すでにありました。過去とともにありました。素晴らしい世界がありました。過去とともに私の未来は今に一つであったことを、私は心に感じこの思いを伝えたい。私はこの肉を通して、このメッセージを伝えていきたいです。過去も未来も今に一つ。このメッセージこそ、私達が待ち望んできた事実。真実の世界でした。ともに一つの世界をここに感じます。私の中にすべてがありました。私の中にすべてがありました。

一七、今幸せ。今という時が幸せ。瞑想をすればもちろんです。日常の用事をしていても幸せ。私は私とともにあることを感じているからです。

たくさんの私が一つの肉を通して、ともに学び、ともにあることを感じ、ともに喜んでいます。

田池留吉の世界に触れられたことを喜んでいきます。アルバートとともに生きていく、存在していく喜び、お母さんを素直に心に呼べる喜びを伝え合っています。

長い時を経て、今ここにようやくたくさんの私とともに歩める幸せ、喜びを感じています。今幸せ。そしてそれはこれからもずっと幸せ、喜びだということです。

決して消えることのない、あせることのない幸せ、喜びがようやくここに現実のものとなりました。

来世の肉の私の登場を、たくさんの私が手放して喜んでいきます。その肉を通して、自分の思いを存分に出して感じて、そしてさらに喜びの道突き進んでいくことを知っているからです。

私達に肉を持たせてくれたお母さんありがとう。一方で、私達は肉を持たずとも、ともに喜びを分かち合えることを知りました。そのように心の中で伝えてくれるように思い

ます。

心を感じていくこと、私を感じていくこと、それが幸せだと私は、瞑想をする中で確認しています。

一八、田池留吉に心を向けます、田池留吉の世界に心を向けます。

私の宇宙が語ってきます。

田池留吉の宇宙、その素晴らしさ、その大きさ広さ、温かさ温もり。

すべてを心を感じていくこと、ああ、それが私達の幸せです。

田池留吉を信じていますか。私達には愚問です。田池留吉の世界を信じていますか。私達には愚問です。信じているか、信じていないか、その問いかけを自分の中にしていくこと、それを私達は、ずっとずっとやってきました。いつも、いつも、田池留吉をどれだけ信じているか、田池留吉の心をどれだけ自分の心として生きていけるか、そのように自分を見つめてきました。

田池留吉の世界。心の中に広がっていく真実の世界。私達にはその世界しかないんです。心を田池留吉に向けていく、アルバートに向けていく、それが私達の自然です。それが私達の世界です。私達には、田池留吉、アルバート、それ以外にはありません。

確かに、心の中に色々な宇宙を作ってきました。しかし、その宇宙はすべて田池留吉、アルバートのほうに心に向けていくことを、しっかりとやっています。しっかりとやっているからこそ、私達は、嬉しい、ありがとうを心に広げていけるんです。田池留吉、アルバートの世界に心向けられること、それが、唯一の喜び。本当に、本当にその喜びを心に感じています。

私は、この思いを滞りなく遂行していくために、今、この肉を持ち、大切な時間を過ごしています。この肉の時間はとても大切な時間です。肉は大切な計画を遂行していくために、滞りなく存在していく必要があります。肉はその邪魔をしません。肉の管理はとても大切です。

意識の世界が本当の世界。ああ、しかし、肉を持っているからこそ、意識の世界が本当の世界だと心で感じる事ができたのです。この肉体細胞にありがとうしかありません。肉はとても大切な手段です。肉体細胞はとても大切。頭の先からつま先まで、私には、とても

大切な仲間です。

滞りなく動いていくこと、スムーズに動いていくこと、それが私の喜びを遂行していく大きな担い手となっています。

真実の世界をさらに深く進めていくために、喜んでこの肉を使わせていただいています。肉はとても大切です。

肉が滞りなく動いているからこそ、私のこの思いがスムーズに遂行していくんです。そのことを思うたびに、肉に活力が漲りみなぎります。

少し身体的に疲れても、私はその思いを心にしつかりと秘めていますから、私の活力はまた蘇ってきます。肉を持つている間、私は自分の計画をしつかりと遂行していきます。それは、私の世界を変えていくことは、大きな、大きなエネルギーとなつて宇宙へ流れていくことの自覚があるからです。心の中の喜び、幸せ、漲るみなぎパワー、すべては宇宙を変えていきます。このことを私は心で知りました。私の元気の源です。

意識の世界はとても活発に動いています。喜びへ真実の世界を目指して活発に動いています。その動きが肉に伝わり、肉を持つている間、私は、この肉をしつかりと動かしてまいります。

生きる源、私の心の世界、そのパワーがこの肉を動かします。喜びのエネルギー、力強いエネルギー、真実に向けての力強いエネルギーがパワーとなって心から発していく、そんな喜びを感じています。

ともに、ともに存在していること、本当にありがとうございます。本当に嬉しいです。田池留吉、アルバート、本当にありがとうございます。

一九、アマテラスの心を心として生き続けてきた反省文が掲載されています。

あの通りです。決して他人事ではありません。みんな多かれ少なかれそのような転生ばかりを繰り返してきました。

どうぞ、アマテラスの心を喜びで受け止めてください。アマテラスの心を膨らませて苦しみを募らせてきた転生ばかりをし続けてきたことを、田池留吉の学びに集った今世こそ、しっかりと自分の中で確認してください。

そして、その地獄の奥底でのたうち回ってきたアマテラスとともに、次の転生に必ず繋いでいってください。

私は、アマテラスの崩壊がとても嬉しいです。今世、この日本の国に生まれてきてアマテラスとともに学びを進めてきたことを、本当に愛しく思っています。

もちろん、アマテラスだけではありません。宇宙を牛耳ってきたエネルギーをどんどん感じています。だから、宇宙に向けて瞑想をすることがとてもなく喜びなんです。

私は、前を見つめています。自分のこれからを過去の私とともにしつかりと見据えています。未来の私が過去の私とともに喜びの歩みを進めていく今という時です。苦しみから喜びへの転換期だった今世でした。肉を持って学ぶ時間もあと僅か、本当にありがとうございます。

二〇、あなたは自分を思っただけで瞑想をしていますか。自分を思えることが嬉しいですか。

私は、自分に意識を向けて私を感じています。心から突き上がってきます。嬉しさが喜びが、力強い思いとともに、心から突き上がってきます。

私は私を思い本当に幸せな時間を過ごしています。

本当の喜びは自分との出会いにありました。私は苦しみではなかった、私は喜びだった

と本当に心から感じています。

そうです。私は喜びでした。喜びだけの世界に私はありました。

だから、私は、田池留吉、アルバートと一つとはっきりと言えるのです。

その真実を引っ提げて、来世の肉を持ってくる私を思う時、本当に今と一つなんだと実感しています。

田池留吉、アルバートに心を向ける、それは自分というものに心を向けることでした。そしてそれは、一つという喜びと幸せを伝えてくれました。

瞑想を重ねていけば、質的に変化していきます。必ず心に伝わり、響いてくる思いの質が変わってきます。幸せなんです。喜びなんです。自分が分かってくる幸せと喜びです。私は喜びだった、その真実と巡り会えばそれでいいんです。喜びの中に永遠に続いていく自分が見えたら感じられれば、これ以上のものではありません。

二一、今世、今、肉を持っている今、今が私にはとても大切な、大切な時間と空間でした。今世を外すことは考えられないことでした。私の計画にはありませんでした。まさに一直線

に突き進むだけでした。

アマテラスの世界を小さく感じます。過去、私の中で君臨してきたアマテラスの世界。今、私の宇宙に思いを向ける時、アマテラスの世界は小さな世界でした。温もりの中に溶け込んでいくアマテラスは、本当に小さな世界でした。

私の中の宇宙は待ち続けていました。待つて、待つて、待ち続けてきました。真つ暗闇の中で待ち続けてきました。ようやく、ようやく、今世という時を迎えた喜びに沸いています。この一つの肉を通して、真実の世界に触れ、その世界がどンドン広がっていく喜びに沸いています。

宇宙にこの思いを伝えたかった。この温もりと安らぎを伝えたかった。

宇宙を心の底から思い切り呼びたかった。

宇宙の隅々にまで思いを伝えたい。母の温もりを心に溢れさせ、そして私の宇宙をみんな、みんな包んでいきたい。肉を離れた後、私の意識はするように働いていきます。今は肉を持ちながら、宇宙に向ける瞑想をやり続けます。それが私の喜び、幸せ。

田池留吉、アルバートの意識の中へ、喜び、温もりの中へ、一つに溶け合っていく喜びを、ようやく今世という時をいただき、知ることができました。田池留吉、アルバート、出会い

をありがとう。本当にありがとう。

二二、自分に用意した肉、時間、環境、本当にありがとう、ありがとう、中からそう伝えてきます。本当の温もりに触れた、出会えたから、私は絶対に後戻りはしません。できるはずはありません。それが私の今世の学びの結果でした。田池留吉の肉、その意識と出会わせていただいた私の学びの結果がはつきりと出ています。ともに学ばせていただいたことに、感謝、感謝です。今、肉を持つてここにある私を思えば、本当にありがとう、ありがとうございます。ありがとうございます、心から喜びます。

肉を持つて学ばせていただいたこと、いただいていることを、心から喜んでいきます。肉というものは本当に大切なものでした。こんな大切な肉を数え切れないほど持たせていただいたこと、そしてまた持つて切望してきたこと、そういうことを思いながら、日々の生活をしています。

朝起きて夜寝るまで、健やかな思いで自分を見つめていけることが嬉しいです。順調に、粛々と進んでいる意識の流れの中にある私を思うとき、何気ない日々の生活も本当に楽しい

です。

私のすべてが喜びへ、喜びを目指して存在していることを、はっきりと知ったから、肉は取り立てて何も必要としません。

今世は、喜びの幕開け。ようやく喜びに通じる道が見えた今世でした。これからの二五〇年に至る時間、意識の世界からの働きがさらに顕著になっていきます。今世を境にして意識の世界に変革が起き、そしてその変革は確実に仕事をしていきます。肉があろうがなかろうが確実に仕事をしていくことを感じ、私は幸せです。

二三、宇宙とともにあった私の心。今、その私の世界を心にしつかりと受け止め感じています。心に広がる温もりと安らぎは、どんな言葉にも置き換えることなどできません。

学ばせていただきました。本当の世界を学ばせていただきました。本当に幸せです。呼称は何でもいいけれど、今は、田池留吉、アルバートです。その真実の世界の中にある喜びを感じています。

意識を向ければいい。心を合わせればいい。伝わってくる、響いてくる世界は何とも言え

ない温もりと安らぎの世界です。田池留吉の肉、形、言動から決して推し量ることのできない田池留吉の世界に、いつでもどこでも瞬時に出会える喜びです。その喜びを、肉を持って学ばせていただきました。これほどの幸せはありません。

今世という一点は、意識の流れの大きな一点でした。今世、意識の流れが大きく転換して、そして、その流れが二五〇年という時間、空間の中で躍動し、次元移行へ加速していくのです。やがて、一番いいタイミングで私達は、再び肉を持って出会います。一二五〇年後はまた、意識の流れの大きな一点、大きな転換期です。

さらに、今度は、肉を通し学ぶというよりも、学んできたものを、肉を通し一気に噴き出していくことでしょうか。その準備のために、私は、今世肉を持ち、田池留吉、アルバートの意識の世界を学んできたのでした。意識の世界の計画には、狂いはありませんでした。私は、そのようにはつきりと感じています。だから、嬉しさが湧き起こってきます。確信が喜びを大きくし、喜びが確信を強くしていきます。

二四、母親の温もりがいかに大切なことなのか、田池留吉は伝えてくれました。田池留吉の

言葉通りです。母親の温もりを心に蘇らせ、その思いをしつかりと心に広げていかない限り、地獄の奥底から抜け出することは不可能です。他力のエネルギーの中に沈み込んだ意識達を救い出すのは不可能です。

しつかりと瞑想を続けていってください。他力のエネルギーの中に沈み込んできたその思いをしつかりと見つめていきましょう。

田池留吉、本当にありがとうございます。母親の温もりを心に蘇らせること、それが唯一の自分を救う手立て、このように教えていただきました。

実践あるのみです。私はその母親の温もりを心に蘇らせてきました。セミナー会場で、母をどれだけ殺しまくってきた自分であったか、その意識の世界を広げてきたエネルギーであったか、そのことをしつかりと心に感じ、それでも、なおこのようにその凄まじいエネルギーと真向かいになるチャンスを与えていただいていることを、本当に心から喜んできました。母は、私を唯一信じてくれた意識です。母の温もりを心に蘇らせ、自分の中にその温もりを広げていくこと、それだけが自分を蘇らせていく本当に大きな一点でした。

今、母に思いを向け、心を語っています。田池留吉、アルバートに思いを向け、心を語っています。宇宙に思いを向け、心を語っています。

宇宙とともに歩めることが喜びです。宇宙が変わっていくことが喜びです。宇宙の中に
素晴らしいエネルギーを広げてきたこの心の中に、喜びを温もりを安らぎを、本当に伝えてく
れました。

今、一つの肉を持ち、その喜びに沸いている宇宙達。この喜びを田池留吉、アルバート
とともに、しっかりと見つめてまいります。

これからの二五〇年、三〇〇年の間、私は今の思いをしつかりと見つめてまいります。肉
があってもなくても、私はこの思いを見つめていくだけです。田池留吉、アルバートの中に、
母なる宇宙の中に私は存在しております。それが私自身でした。ともに一つの世界にあり
ました。

異語が私の喜びを伝えてくれます。異語が私に安らぎを伝えてくれます。宇宙が異語と
ともに広がっていきます。宇宙へ帰る喜びを私は異語とともに確認しています。ありがとうございます。
ございます。本当にありがとうございます。

二五、肉の時間を有効に効果的に使いたい、使っていくことが大切、今朝はこんなメッセージが届きました。

私が私に伝えるメッセージには、自分のために生きなさいという思いが根底に流れています。自分のために生きることが本当の喜びに繋がっていくことを伝えてきます。ようやくその意味を正しく理解できるまでになりました。

宇宙を思うこと、思えること、喜びは宇宙とともにある、こんなフレーズも伝わってきます。田池留吉と思えば幸せ、アルバートと思えば幸せ、それらは宇宙を思えることに直結していくからです。田池留吉、アルバートを思えば宇宙、どこまでも、どこまでも限りなく広がっていく意識の世界が温もりと安らぎを伝えてくれます。

私の意識の世界はこの中に生きています。この中に存在しています。肉を通し、それははつきりと感じられる今、幸せ、喜び、ありがとうしかありません。

淡々と瞑想を重ねていけばいいだけです。決して揺るぎのない信のもとに、肉はそれをしていけばいい、こんな幸せはないと思います。ゆったりと瞑想をする時間と空間が、私に喜びと幸せを伝えてくれます。

二六、目に見える世界しか信じてこなかった私でした。本当によくここまで自分を変えることができました。

今、私は、瞑想をする中で、自分の宇宙を思い、いつも、いつも田池留吉、アルバートの中で、その宇宙達と語り続けています。たまらなく嬉しいです。宇宙に向ける瞑想がたまらなく嬉しいです。

心を感じ心に伝わり心に響いてくる世界です。お母さんと一斉に叫んでいます。アルバートと一斉に呼んでいます。私の宇宙が温もりの中で喜んでいきます。

家で、田池留吉を思い、アルバートを思い、そして宇宙を思う瞑想をして幸せ。そしてまた、セミナー会場で心向けられる幸せ。お母さん、こんな幸せな時間と空間を私は持たせていただいています。本当にありがとうございます。

田池留吉、アルバートに心向けられる、合わせられる、それだけ。それだけの学びでした。後は何も要らない。それですべてが分かります。心が知っていました。田池留吉、アルバートの世界だけが真実の世界だと。そして、その世界が本当の私の世界。私が私と出会えればそれでよかったです。

本当に自分の過ちに気付いて自分を見つめ直すそうと、真摯に自分と向き合う学びをしてきたか、その結果は歴然としていきます。

学びから去っていくのも自由、引き止めることはしません。ただ、そういう言葉が出てきたり、思いが過つたりするということは、どれほど己が偉いかということ。自分の己の偉さに全く気付いていないということです。己が偉すぎる、どこかでそのことに気付いていただきたい、そのように思います。

二七、頭もある程度動かし、身体もある程度動かします。肉の生活のリズムがあります。それが楽しいというのは、田池留吉、アルバートの世界のリズムを知っているからでしょう。

田池留吉、アルバートの世界を知っていけばいくほど、身の振り方、肉の存在のあり方、そういうものにも、きちんと思いが向きます。意識、意識と言つて、肉の生活をいい加減にしているわけではありません。いわゆる、だらしない生活、不摂生な生活、そういう生活はできません。本当に自分を振り返っていこうと思つたならば、まず生活態度の改善から事は

遂行されていくでしょう。

意識の世界の自己確立は、肉の世界の自己確立を自然と成立させます。また肉の世界の自己確立があるから、意識の世界の自己確立も効果的に進んでいくのだと私は思っています。肉と意識の関係、これは密接です。肉を通して真実の世界を学ぶ、そのために肉を用意し環境を用意してきたことは、間違いのない事実です。その肉を、目的達成のために、滞りなく存在させる工夫がある程度必要です。それが肉の生活のリズムを整えることだと思います。

二八、「とにかく私は学びたい、自分に真実の世界を伝えたい、中からの至上命令でした。学ぶために生まれてきました。十分に学ぶために、そのために今世がありました。」

瞑想の中で、自分に思いを向ければ私はこのように答えます。私の思い通りの道を歩いていることがたまらなく嬉しいです。本当にたまらなく嬉しいんです。これ以上の幸せはない、心からそう思います。それが私の今世という時間です。

瞑想をして、心の底から突き上がってくる思いは、本当に私は今世を待っていたんだと

いう強い思いです。自分を絶対に生かすという強い思いです。

今世を外してはならない、自分との約束は絶対に反故ほごにしない、その思いのもとに自分を集中させてきた、そのエネルギーはすごいと思います。しかし、だからこそ、次元移行への道突き進んでいけるのです。

私は、瞑想をすれば必ず異語で語ります。異語の中に自分の宇宙を感じています。その宇宙が温かい、温かい温もりの中に、どこまでも広がっていく喜びを伝えてきます。

そうだよ、田池留吉だよ、アルバートだよ、嬉しいね、嬉しいね、よかった、よかった、お母さんありがとう、異語の中で私達はそう喜び合っているのです。宇宙は私の中にありました。宇宙という世界が私でした。今、田池留吉、アルバート、お母さんと呼べる幸せを心から感じています。宇宙は喜びです。本当に長い、長い時間を経てきました。ここまでくるのにどれだけの時間を経てきたことか。しかし、確実に変わっていく宇宙を日々感じ、私は喜びです。出会いをただただありがとうしかありません。

二九、とにかく学びたい、真実を伝えてください、こんな仲間達と私は二五〇年後の来世、

たくさん出会います。こんな人達とたくさん出会います。それは、今世、学びに集ってきた人達という意味ではありません。

とにかく、これからの二五〇年の間、転生を重ねてきた人達（意識）の中に、私が出会うたくさんの人達があります。心の中をすべてさらけ出し、真実を伝えてください、真実を知りたい、とにかく知りたい、私はなぜ生まれてきたのか、なぜこんなに苦しい時間があるのか、私達はずっとこのまま苦しい時間を過ごしていくのか、これまでずっと苦しい時間を過ごしてきた、私達はこれからどうなるのか、私はそんな思いを向けてくる人達に出会っていきま

す。その時、私はこの心から自分の思いを語ります。

二五〇年後の来世の肉が語ります。ああ、私も肉を持って苦しかったよ。でも、私は本当のことを知っているんだ。ああ、そうだ、みんな、みんな一つの中にあるんだ。ああ、お母さんの中にあつたんだ。お母さんの温もりを思い出していこう。そうやって私は伝えていきます。伝えていくというよりも、この心の中からその叫びが飛び出ていくんです。私の肉と意識が一つになって、すべての意識達が一つになって、来世の肉を通し、その思いが飛び出てきます。

それがエネルギーとなって流れていきます。宇宙に流れていくんです。宇宙からの仲間

達がもちろん、私のところにやってきます。私の心に通信してくるんです。ああ、とても嬉しいです。宇宙達を私は喜び、喜びで迎えていく、そんな時間が約束されています。そんな時間が計画されています。そんな道のりを私は歩いていきます。二五〇年を通過し、そしてその瞬間を迎えます。喜びの瞬間です。喜びの中に喜びを感じ合う瞬間です。田池留吉、アルバートとともにあった喜びを感じ合う瞬間、その瞬間を私は私の宇宙達とともに感じ合います。もちろん、地球上に転生してきた意識達、その人達とともに喜びを感じ合います。私は、この肉を通し、宇宙へ、宇宙へ思いを向けてきたその思いの中で、しっかりと手を取り合って、心をつにして、永遠に続いていく道を歩いていく、そんな喜びを分かち合える意識達を心で待っています。

地球に転生をしてきた意識達、転生をしてこなかった意識達、すべてが一つの中に溶け込み、温もりの中へ喜びの中へ包まれていく道筋、私の中で今、感じていきます。これからの時間、私はこの喜びとともに歩いていくんだ、ともに存在していくんだ、そんなことを感じ瞑想を続けています。

三〇、私の中では、偽物と本物との綱引きはもうありません。およそ十年前は、まだまだその綱引きが盛んでした。

しかし、私は自分の中の温もりに目覚めたのです。そのエネルギーの質が変わりました。自分の中の歴史は完全に今世を境にして変わったことを確認しています。

だからこそ、真実の道へ突き進むことができるのです。私はその手ごたえをしっかりと感じています。

暗黒の真つ暗闇の宇宙が真実の世界との出会いを実現できたことは、奇跡とまでは言いませんが、本当にすごいことでした。

そのすごさ、ありがたさを私はこの肉を通し感じています。本当にすごい出会いでした。宇宙を思う瞑想、宇宙に心を向ける瞑想、この出会いがあったから、私はその瞑想を通し、本当に喜びを感じています。

心が大きく広がっていく時間です。宇宙を呼ぶ私の中には、苦しみはありません。暗黒の宇宙を広げてきた私の中で、凄まじいエネルギーを感じるけれども、それが何とも言えない温もりを伝えてきます。それが喜びでした。宇宙を思うこと、宇宙に心を向けること、今ここに肉を持ち、その喜びと幸せを感じています。

三一、肉がある間は元気で、淡々と日々の生活をしながら、意識の私とともに存在していければ、もうそれで肉は幸せです。

私は独立独歩の生き方を理想としてきました。これまでの転生の中では、その道の真の喜びが分かりませんでした。

独立独歩、自分の中の優しさと温もりに目覚めてこそ、それが真の喜びの道でした。

孤独で寂しい独立独歩ではなくて、本当に温もりと優しさの中にある自分を感じていけば、それこそが真の喜びの道だと言えると思います。

依存する心、依存される心、それを爽やかに清々しく喜びへと帰っていく必要性、大切さ、喜びを、今世の私は肉を持って学習したように思います。

私の前に大きく広がっている世界、それはどこまでも果てしなく続き、果てしなく広がっていく世界です。

私はその中であつた、過去からずっとあつた、これからもずっとある、そのことを本当に心で知りました。そして、これからの肉の時間の中から、肉を持たない時間を経て、また再び肉を持つてくる時間の中で、途切れることなくそれを確認していくのです。

私は私とともに学習していく独立独歩の道の喜びを知りました。

田池留吉、アルバートの世界を本当に心で知ったからです。思えばそこへ通じる世界、いえ、その世界こそが私の世界だった、そういうことを学ばせていただきました。今世はすごい学習をさせていただきました。

三三、次元移行を思うと嬉しくてたまりません。そこにはすべての私があるからです。私の中すべてとともに次元を超えていく喜び、より真実の世界へ存在していくことが明らかになった今、次元移行に思いを馳せ、あと僅かの肉の時間を愛しむように通過していきます。あと一回、二五〇年後の肉を起爆剤として、次元移行へと突き進む肉の時間、私にはたまらなく嬉しいです。次元を超えて存在していく喜び、喜びが瞑想をする中で心に響いてきます。

私は、今世、真実の波動を心に広げることが果たしました。瞑想は、それを確認する作業です。瞑想で、今世ようやく宇宙、母なる宇宙への道が自分の中ではつきりと姿を現したことを確認しています。ただもう前を向いて歩いていくだけです。

自分が待って、待って、待ち望んできたことが現実のものとなっていく喜びを感じ、そ

のためにすべてが整えられている、そのような中に存在していたと感じています。そう感じられることが幸せです。

異語とともに私の宇宙を呼ぶ、私の宇宙に思いを向ける、この瞑想がたまらなく喜びと温もりを伝えてきます。瞑想は喜びです。私の宇宙は喜びです。愛しいです。母なる宇宙とともにあった、母なる宇宙の中にあった、その温もりと喜びを伝えてきます。

三三、はつきりと申し上げて、私の感じている世界はすごい世界だと思えます。しかし、それもまた真実の世界のほんの一端です。ようやく、今世、その世界の入り口を知って、確実にその道を歩いていつているだけのことです。しかし、だからこそ、私の喜びは本物であり、もう喜びなんです。だから、こんな世界を感じています、こうすればこうなります、そうでなければこうですよと淡々と語るだけです。そして、その思い、波動、エネルギーをこれからも流し続けていくことも明らかです。

田池留吉、アルバートの世界に心を向ける、合わせるといふことはそういうことです。肉があってもなくても、ともに存在する喜びを流していくことができますと知りました。

心の中が喜びに湧き返っている、この表現が決して大げさなものではないことは、今世という時がどんな時なのか心で分かれば分かっていたいただけるでしょう。

三四、過去も未来も今に一つ、これこそ本当に喜びのメッセージだと思えます。

過去も未来も今の自分と一つになって真実の道を歩いていく感覚、この感触、たまらないです。

ああ、私は幸せだとしみじみ思います。それ以外のことは黙っていても整ってきます。本当に自分が知りたかったことを知っていく、分かっていく、自分のものとなっていく、それさえ確認、確信できれば、それ以外のことは、いいようになっていくということを整っていると感じていきます。

真の意味で自己を確立するために、肉を持つて学ぶ時を用意しました。本当に嬉しいです。私の願いでした。私の切なる望みでした。自分に優しく自分を愛しく、自分を大切に、自己確立の道こそ、幸せ、喜びの道でした。その予習を今世させていただき、来世の肉で再び、それを学習させていただいて、私の三次元の学習は無事終了します。

三五、すべての私とともに母なる宇宙へ帰る喜び、田池留吉、アルバートの意識が肉を持って、その喜びを伝えてくれました。

地球に転生をしてきた心に、今世ようやくその真実を伝えることができました。本当に嬉しいです。たまらなく嬉しいです。

ようやくその時を迎えることができた、次元移行へまっしぐら、その思い、そのエネルギー、その喜び、しっかりと心に響いています。

来世の劇的な再会は、私の中の宇宙が一斉に飛び出してくる瞬間です。その勢い、そのエネルギーはたとえようもない喜びです。私達には言葉は要らない。ただ通じ合う世界がある。本当に心と心が触れ合い、喜び合い、思うだけでもうそれだけで通じ合う世界にあることが確認できます。

私は、すべての私とともに母なる宇宙へ帰ります。宇宙は私のふるさとでした。そのふるさとの宇宙が心に響いてくる今、私は本当に幸せです。

異語が懐かしく、懐かしく私の心に響きます。宇宙が呼んでいる、母なる宇宙が呼んでいる、本当に帰りたかった、懐かしい遥かなる宇宙、そんな思いが心に広がっていきます。

三六、二五〇年後の再会は劇的なものです。劇的な再会から意識の流れが劇的に流れていくのです。

二五〇年後の出会いが最初の第一歩であり、その出会いがすべてです。今世のように時間はかかりません。出会った瞬間です。出会った瞬間に、もうすべてが蘇ってくるのです。本当にそこには何も要らない。言葉など要らないんです。もどかしい言葉など要らない。それが私にはたまらなく嬉しいのです。心に感じるからです。真実の世界が肉を持ってくる、その喜びと幸せは、今世とは比べることができないほどのスケールです。

これから二五〇年に至る激動の時間の中を通過して集い来る意識達の思い、必死で真実を求めてやってくる意識達の思い、温もりの中へ、喜びの中へ一つに溶け合う喜びを、私は、二五〇年後の肉を通し存分に味あわせていただきます。

田池留吉と思えば嬉しい。田池留吉の肉を通して流れる世界に私はたまらない喜びと温もり、幸せを感じます。その世界はアルバートです。田池留吉、アルバート、お母さん、母なる宇宙、待って、待って待ち侘びてきた世界。ようやく、ようやくです。本当にようやく

です。ようやく辿り着いた世界。私の中でただただ嬉しい、嬉しい、ありがとう、お母さん
ありがとう、ありがとうございます、そんな思いで湧き返っています。

三七、自分を証明していく喜び、幸せ。それは、田池留吉、アルバートの世界を心で感じて
いく以外にありません。

そして、田池留吉、アルバートの世界を心で感じていくには、母の温もりの中にあつた
自分を本当に心の中に蘇らせる必要があります。蘇らせ、それが確立してこなければなりま
せん。

その手前の母の温もりの中にあつた自分を信じられなければ、他力のエネルギーに振り
回され狂い続けるしかないのです。それでは、とてもとても喜び、幸せには繋がってきません。
たとえば、セミナー会場で、瞬間的に、あるいは一時的に喜び、幸せの状態になっても、
それは文字通り瞬間的、一時的なもの、時間の経過とともに元の状態になります。

心に培い蓄えてきた他力のエネルギーはすごいです。だから生まれてきたんです。だか
ら学ぶチャンスを自ら作ってきたんです。一つの肉に全宇宙を背負っている自覚があなたに

あります。今の肉よ、しっかりしろ、あなたが背負っている全宇宙達はそのようなあなたに伝えているのです。どうぞ、その思いを心から知ってください。

自分を狂わせてきた、自分を苦しめてきた張本人は自分だった、温もりがそう伝えてくれました。

私の現実は無想の中にあります。心の針を田池留吉、アルバートに向ける、合わせる瞑想を通して、私が広がっていきます。温もりが喜びが広がっていきます。

何度も、何度も、これを繰り返しています。心に向ける、合わせるこれを繰り返しています。そこに私の喜び、幸せがあるからです。

心から湧き上がってくる思いは、すべての私とともにある喜び、幸せです。私は、何とも言えない中にあります。すべての私とともに次元を超えて存在していく喜びを、瞑想の中で感じています。

三八、目も耳も鼻も口も胃も腸も、私の肉体細胞すべてが田池留吉、アルバートを求めてここにこうして今存在しています。

この肉体細胞を私は喜んでいきます。肉体細胞の中の優しき、温もりを感じています。肉は愚かです。肉体細胞の優しき、温もりをなかなか心で分ることができませんでした。しかし、私は今、自分の心を見つめ、自分のエネルギーを感じ、そして母にもらったこの肉体、肉体細胞に思いを向けた時、ああ、私の中の本当の優しき、温もりをこの肉体細胞は、ずっと、ずっと、ずっと、ずっと伝えてくれていた、そんなことを感じます。

田池留吉、アルバート、心の中の喜びを私はこの肉体細胞とともに感じていきます。私の肉体細胞は今、とても、とても穏やかに、穏やかにその喜びの時を喜んでいきます。

私は宇宙に思いを向けて、今、瞑想を続けています。田池留吉、アルバートを思えば、宇宙に心が繋がっていきます。私の意識の世界は、宇宙へ宇宙へ心に向けていくようになっていきます。この宇宙はすべて喜びでした。宇宙にすごいエネルギーを流してきたけれど、その宇宙は本当に今世を境にして変わっていくことを感じています。

ブラックのエネルギーは、嬉しい、嬉しいと伝えてきます。

ああ、何という世界なんでしょうか。私達はこの世界を本当に心待ちしていました。UFO達の喜びを心に感じています。ああ、UFO達。心の中のUFO達。とても、とても嬉

しいです。私はこのU F O達とともに次元を超えていくんです。とても、とても嬉しいです。私の中にU F O達の思いが心に響いてきます。お母さん、ありがとうございます。

肉を持ってきた私、肉を持たない私、ともに次元を超えていく喜びに湧いています。異語が私に喜びを伝えてくれる。U F O達の異語を私は心で聞いています。過去、地球上に肉、形を持った意識で、真実に辿り着いた意識は皆無だった、これが私のこの学びを通して、知り得た現実、事実でした。

たくさん間違いを繰り返してきました。

神の声を聞き、神の思いを発するたくさん間違いを繰り返してきました。ああ、しかし、それは、すべてすべて真実を知らない冷たい、冷たい世界からの通信でした。私は、今、自分の中の優しさ、温もりの田池留吉、アルバート、母なる宇宙からの思いを聞いています。その世界をしつかりと心を感じています。全く間違ってきたものを信じ、それによって自分を狂わせ、流してきたエネルギーはどれだけ懺悔しても懺悔し切れないほどのエネルギーでした。

しかし、私の中は、だからこそ、しっかりとこの喜びと温もり、優しさを伝えていきなさい。ただただ心を向けることで伝わっていくことを知りなさい。はっきりとそのように伝わって

きます。そうです、ただただ心の向け先をしっかりと定め、喜びと温もりを伝えていけることが喜びです。

肉体細胞がある今、私はその喜びを肉体細胞とともに感じていきます。そして、やがて私は、この肉体細胞と別れを告げ、今感じている世界を、ああ、この心から流してまいります。

三九、瞑想は楽しい。瞑想は喜び。ただただ喜び。宇宙を思う。宇宙を思えばただただ嬉しい。今、私はこの肉体を通して存分に瞑想の嬉しさ、喜びを味わっています。

肉をいただいた意味を本当に嬉しく思っています。肉の喜びと幸せは、この私のエネルギーを知り、私の喜びを知り、私の優しさと温もりを知ることでした。

田池留吉、アルバートの世界に生きている、本当に心にそう響いてくる喜び。それこそが、それだけが私の望みでした。

本当の自分との出会いがなければ、決して本当の喜びも幸せも分らない。

ままごとの喜びと幸せは、肉の努力をして肉が頑張れば手に入れるのは容易いです。目標を定めて鋭意努力、ひと踏ん張りもふた踏ん張りもすれば、人並み以上の生活はできます。

怠け者でなく普通にやっていたら、それなりの生活が家族とともに用意されます。

しかし、それだけでは何のために生まれてきたのか、今という時が何のためにあるのか分からないまま、悲喜こもももの末に死んでいくことになります。

そんなために生まれてきたのではない、その声を心から聞ける人が一人でも増えてくれたならと私は思っています。

四〇、母親の温もり、母の温もりを心に広げることができるようになれば、どんどんどんどん宇宙を思っていてください。

宇宙を思うんです。宇宙に向けて瞑想を続けていってください。

宇宙を思えることが喜び、本当に心の底からそのように思えるあなたに蘇ってください。

母の温もりこそすべて。そして、宇宙を思えることがすべてです。私達はこのようにして肉を持っています。宇宙へ、宇宙へ思いを向ける喜びを感じるためです。

これからの二五〇年、激動の時間を経て私達の再会があります。しかし、私達の喜びを心で感じるには、その二五〇年をいかに生きていくか、いかに存在していくかに大きく、大

きく関わっています。

今世この学びに集ってきた人達はもちろん、学びに集ってこない人達も、これからの転生を経て私達と出会いがあります。

その中で私達は、宇宙へ、宇宙へ思いを向ける、UFOへ思いを向けるのです。その凄まじいエネルギーの中で本当に喜び合える仲間として、私達の出会いを楽しみに待っているその意識達に、今、私は思いを向けています。

心から喜びを味わっていきましょう。田池留吉、アルバート、母なる宇宙へ心を向ける喜びです。これからの二五〇年の間、本当に、本当に心から、心から自分を見つめ直していくってください。

嬉しいです。嬉しいです。まだ見ぬ仲間達との出会いを、私は心待ちしております。宇宙へ、宇宙へ思いを向ける、UFOが応えてくる、そんな中で、ともに、ともに次元を超えていく喜びを存分に味わっていききたい。今、私はそのようにお伝えします。

四一、瞬時に思える喜び、幸せです。心を向けるだけでいい。私の中から溢れるほどの温も

りが感じられる。心の広がりを感じます。

田池留吉、アルバート、アルバート、アルバート、心がそう呼び続けます。

瞑想は喜びです。瞑想は温もりです。瞑想は広がりです。

私は、ただ前を向いてひたすら自分の道を歩き続けていくだけです。

それが幸せ、それが何とも言えない喜びです。

この思いは言葉にはできません。心で感じる世界。心に響く世界、それが私。私はこの世界に生きています。温もりが私。優しさが私。母の思いが私です。

私は私のふるさと感じています。だから私は幸せです。思い悩むことなど何もありません。私はこの流れに流れていくだけです。

瞑想を通して私はますますその信を強く太くしていきます。それが私の喜びだからです。

自己確立の道、私が私を喜びと温もりの世界にいざなっている真実と出会いました。ただただ嬉しいです。

すべてが整っています。私には何も要らない。瞬時に心を田池留吉、アルバートに合わせることができるからです。思えば通じる喜び、私の中で確立しています。

四二、真実を学ぶ、知るために肉を持つてきた私にとって、その環境が整わないはずはありません。まさしく私の今世の時間、学ぶためには申し分なく整っています。何の煩わしさもありません。

すべてが自分で計画してきたこと、自らの愛の中に私は生かされています。

地球上に肉を持つ時間、今世あと三十年弱、来世と合わせれば百年にも満たないです。残り僅かとなりました。しかし、私は本当に嬉しいです。

肉を持つて存在している時間、存分にその喜びと幸せ、ありがたさを感じ楽しんでいきます。

私は私が愛しい。本当に愛しいです。そのすべての私がついになって、ともに生きていくことができるのです。喜びも悲しみも辛さも憎しみ呪いも何もなかったのです。ただ真実を知らなかったから、喜びだ、悲しいよ、憎い、殺してやると叫んできただけのことです。

私は喜び、私は温もり、本当にその私との出会いを果たした私にとって、その叫び声は、うめき声は、ただただ愛しいだけです。

私は私に帰ります。私の中の真なる私に帰ることを、温もりと優しさの中ではつきりと

知りました。

それが、田池留吉、アルバートという波動の世界です。その波動と出会った、出会ったのです。それは紛れもない事実でした。

四三、私は、田池留吉と思うだけで嬉しい。これは本当です。これは何も優等生的な答えではなくて、私は本当にそう思っています。

ということは、私は私を思い、私は私にたまらない愛しさを感じているということなのです。

もっと言えば、田池留吉がアルバートに思いを向けてごらんとか、アルバートを呼んでごらんというメッセージを發したなら、もう私は一も二もなく、ただただ嬉しい、ありがとうございます、ありがとうございます、それだけです。

私の意識の世界はアルバートを待って、待つて待ち続けてきました。田池留吉の意識はそれを伝えにきてくれたのです。田池留吉を通してアルバートの波動を感じてきた私です。私の中に、アルバートを心の底から呼ぶ私は、だから、もう田池留吉を思うだけで嬉しいのです。

田池留吉の世界はアルバートの世界に直結しています。田池留吉の世界を思うことは、アルバートの波動に出会って、出会っていく喜びを私に伝えてくれます。その喜びが心に大きく広がっていきます。温もりとともにあの懐かしい私のふるさとへいざなってくれるのです。瞑想は楽しい。瞑想は嬉しい。今、肉を持つている間、瞑想という作業は宇宙の喜びを心を感じさせてくれる唯一の手段です。

瞑想を通し、田池留吉、アルバートの世界と出会い、そして宇宙を感じていける、幸せです。宇宙に培ってきたエネルギーは、大きな喜びを伝えてくれます。田池留吉、アルバートとともに心向けることが喜びです。宇宙が応えてきます。喜びで応えてきます。瞑想の醍醐味です。

四四、宇宙に心向けると、ただただ嬉しいんです。嬉しい、温かな、温かな温もりとともに私は広がっていきます。

瞑想がこれほど素晴らしいものだとは思いませんでした。私は自分の中が本当に喜んでいることを実感しています。自分を思えることが嬉しい、幸せです。

数限りない母の意識に触れさせていただいたてきました。本当に幸せ者です。本当にありがとうございます。肉をもらうたびに母の意識と対話してきました。今その思いが心に響いてきます。瞑想をすれば、その母の意識が心に伝わってきます。お母さんありがとう、本当にありがとうございます。私の成長を本当に心から待っていてくれました。

お母さん、ありがとうございます。長い、長い間ありがとうございます。私、やっと、お母さんとの約束を果たすことができましたよ。私はそうお母さんに目を輝かせて話しているような、そんな気がします。お母さんにそう言えることが嬉しくてたまらない、そんな感じですよ。

母の意識は惜しげもなく私に優しさで温もりを教えてくれました。今、宇宙に思いを向けるとき、ああ、そうだった、そうだったと心に蘇ってくるのです。宇宙へ思いを向ければ、母を感じることができます。お母さんといっしょにいることを感じて、嬉しくて懐かしくて涙が溢れてきます。お母さん、アルバイト、私は嬉しい、嬉しい、ありがとうございます、ありがとうございます。

四五、皆さんもやってみられたでしょうか。

ホームページの赤文字、ひときわ大きな文字にあなたの心を向けてみてください。きっと様々な反応があると思います。

何かを感じられたならそれもよし、感じられなくてもそれもよしです。要は、今そうして私達は学ぶチャンスに出会っているという喜びが、ご自分の心の中に、起こってくればそれでいいのです。

もちろん、私も実践させていただきました。私は私の勉強として活用させていただきました。独立独歩の道は喜びの道という確信がさらに深められたことが私の喜びです。

今世は私にとって、非常に、非常に、大切な、大切な時間と空間です。私は私のこの思いとともに、これからも存在していただくだけです。よりいっそう私に近づいていくために、永遠と存在していく喜びを感じさせていただきました。

四六、 思うことが喜び。 思えることが喜び。

ただ思うだけでいい、温もりの中にあることを感じます。私はそれが私だと確信しています。私の中からどんどん溢れ出てくるからです。中から溢れてくるんです。私はそれが嬉

しくてたまらない。だから瞑想はただ嬉しいだけです。そんな私との出会いがあるからです。私は私に喜びを伝えてくれます。田池留吉、アルバートと一つだよと喜びを伝えてくれます。だから思えばいい、思うことが、それが喜びなんです。心に向ける、合わせる、それだけです。

私の中の宇宙はみんな叫んでいます。はい、アルバート、アルバート、アルバート。田池留吉、アルバート、ありがとう、ありがとう、ありがとう。私の中の宇宙は一斉に叫んでいます。それは本当に、大きな、大きな喜びです。

確かな喜び、喜びのエネルギー、パワーを感じます。私の中にはすごいパワーがあります。これこそ本当のパワーだと思います。自然治癒力に思いを向けるときと全く同じ。心の中の田池留吉、アルバートの喜びのエネルギーは、自然治癒力として、私の肉体細胞に作用しています。私の肉体細胞が活性化されていきます。私の中の喜びのエネルギーで、私の肉体細胞が活性化されていきます。

私は、この喜びを伝えるために、今肉が必要です。喜びを宇宙に発信していくために、肉体細胞が必要なんです。今はそんな時間です。私は肉を持つ間は元気に過ごさせていただき

ます。肉体細胞とともにある喜びを心に大きく感じています。

田池留吉、アルバートの宇宙。私の中に大きな喜びを伝えてくれます。喜び、喜びのエネルギーを流していきましよう。ともに、ともに流していきましよう。私の中の宇宙が喜び合っている、その思いを感じとても嬉しいです。

思えば、嬉しい。瞑想は楽しい。この世界を感じることが出来る。ただただ嬉しい、嬉しい。嬉しい心が広がっていきます。

温かな温もりの中に心が広がっていく。ああ、お母さん、ありがとう。

四七、淡々と瞑想を続けていくこと、今を喜びながら淡々と生活をしていくこと、私の基本です。

私の過去、私の今、私の未来、思えばただありがとうしかありません。

目は見、耳は聞き、そこから様々な情報が入ってくるけれど、私の基本は何も変わることはありません。私は私の世界に生きています。その世界が広ければ広いほど幸せ、温かければ温かいほど喜び、すべては自分が織りなしていくことを知りました。

自分を幸せ、喜びに導いていける幸せ、喜びを知ったことは、何にも代えられないことです。自然に肉体細胞にありがとうの思いが出ます。自然に私にありがとうの思いが出ます。

田池留吉、アルバートを思い、母を思い瞑想をする、その喜びのエネルギーは宇宙に流れていきます。粛々と流れていく喜びを感じながら、私はまた瞑想を続けます。

四八、テーマ、題材は何でもいいんです。田池留吉が向けてごらんと言えば、私は自分の心に向けるだけです。

そして、向ければ、私は田池留吉、アルバートの世界と一つの喜びをただただ感じていることが喜びなのです。何をテーマにしても、私には田池留吉、アルバートの世界の喜びが心に響いてくる、それだけです。

今は自然治癒力です。自然治癒力と心に向ければ、ただ田池留吉、アルバートが心に響いてきます。

身体の不調和を改善する、精神的に不安定な状態をなくする、心から田池留吉、アルバートの世界を信じていけば、それは間違いなくそうやっていくことも知っています。また、そ

うなっていくことは、学びの一過程に過ぎないことも知っています。真実の波動の世界から発せられるエネルギーの存在を、目に見える形で示していけば、少しはこの学びを真剣にやってみようと思うのではないでしょうか。まずはそこからだと思います。

真摯に真剣に学びに取り組むこと、取り組んでくださいという田池留吉からの思いを、皆さん感じませんか。

私は日々、喜びで瞑想をしています。田池留吉、アルバートを思い、宇宙を思う瞑想です。そしてそれは全部自分なんです。自分を思うことが喜び、自然治癒力を思い、宇宙へ、次元移行へ、私の意識の世界は限りなく広がっていきます。

四九、 異語とともに私は瞑想をする。心の底から喜びが突き上がってきます。私の中で、本当に今という時を待っていたたくさんの宇宙達を感じる時間です。

肉の私は今でも不思議でなりません。以前はこの鈍感な肉と意識の乖離かいりに悩んでいたこともありました。しかし、今は、肉は相変わらず不思議だと思いながら、私の現実は、瞑想で感じている世界なんだとしっかりと納得しています。

さて、今は自然治癒力。

その自然治癒力のほうに心を向け、私の瞑想は続きます。

ふうっと心を向ければ、自然治癒力イコール宇宙。宇宙のパワー。すべてを生かす喜びのエネルギーと出てきます。私の中で自然に出てきます。

ああ、このパワー、このパワーこそ、ずっと、ずっと探し続けてきたものだった。ああ、そうだった、お母さん、このパワー私の中にあっただんですね。このパワーこそが私そのものだったんですね。そんなことを母に話しかけている私がいいます。

パワーは温もり。パワーは愛。宇宙に向けて瞑想をすることがたまらない喜びです。

お母さん、お母さん、私は嬉しくて仕方がありません。心の底からありがとうございます。湧いて出てきます。

ああ、たくさんの宇宙を感じます。心の中から私は、その宇宙達に伝えます。ありがとうございます、ありがとうございます、今こうして私は私を思える時間をいただいています。母に思いを向け、遥かなる宇宙に思いを向け、心の中のふるさとを思う喜びを感じています。

宇宙は私のふるさとでした。本当に懐かしい、懐かしいふるさと。私の中に広がっています。温もりとともに広がっていきます。

呼べども呼べども届かなかった心の中に私は、今、ようやくふるさとを呼ぶことができ
ました。ともに歩めることが嬉しいです。宇宙、私は宇宙を呼びます。宇宙を呼び、これか
らもただただ宇宙を思っています。

五〇、皆さん、どうでしょうか。自然治癒力を思い瞑想をしていますか。

今、身体の元気な人もそうでない人も、自然治癒力を思い瞑想をしていますか。ホーム
ページでこうしてみてもと書かれていたなら、まず実践することです。それが素直というこ
とです。我流の学びは止めてください。

田池留吉が自然治癒力と言っているのです。素直に心を向けてみればいいのです。世間
で言っているいわゆる自然治癒力とは違うのです。

素直に心を向けた人は分かります。どうぞ、心で学ぶ勉強をなさってください。

もちろん、学びの基本は何も変わることはありません。母の反省、母を思う瞑想、母の
温もり、そして自己供養、そうした中で、宇宙、二五〇年後、次元移行、その波動の世界の
素晴らしさを感じていけるのです。

今は肉を持って学ぶ時間です。肉は非常に大切です。健やかに爽やかに、自分と真向かいになっていくために、肉体細胞が惜しみなく協力してくれています。今という時間を大切にしていきたいでしょう。

喜び、喜び、喜びを感じ合える、本当に心の底から感じ合えることを楽しみに待っています。

五一、私は、もちろん証し人です。田池留吉、アルバートの世界を伝えにきてくれた田池留吉の証し人です。

私は、その喜びの道を、今世、そしてこれからの時間、確実に歩んでいきます。自分の中の真実を目指して、喜びの道を歩いていく意識です。

その道は果てしなく続いています。だから嬉しいんです。だから喜びなんです。

瞑想をすれば、私はこの喜びの世界が心に広がっていきます。

ああ、これが私の世界なんだ、そこには何もありません。ただただ温もりとともに広がっていく世界があります。

喜びを感じるのに本当に何も要らない。思えばいいだけです。

たとえば、あなたが今の肉体細胞を通して、田池留吉、アルバートの世界の証し人になられたらどうでしょうか。

病んだ肉体細胞を通し、本当に、この学びを自分の中で消化する方向に向かえるのなら、病よ、本当にありがとう、そう、心から思えるあなたになられるのではないのでしょうか。

身体が不調和、精神的に不調和、これは、この学びをする人達にとっては、一番の愛なのかもしれません。

私には、その計画はありませんでした。私には私のシナリオがあり、そのシナリオを自分のために精一杯活用させていただいています。私もまた大いなる愛の中に包まれています。今世、田池留吉、アルバートの波動の世界を心で感じて、感じて、感じていける喜びの計画でした。もちろん、来世もそうです。

私は、ただただ心を宇宙に向けるのみです。宇宙と思えば、ただただ心が広がっていく中で、その喜びの世界を満喫していきます。

五二、私は自分が愛しくてたまりません。私を思い瞑想をしていけば、心から温かい思いが力強く突き上がってきます。

ふんわりとした柔らかな温かさというよりも、もつと熱く力強くてというほうが適当なのかも知れません。その熱い思いは、ただひたすらに真実を探し続け、ようやく遙かなる宇宙を心に広げていくことができる、そのことに対する心からの喜びとでも言うのでしょうか。ただただ嬉しい、本当に嬉しい。私は私を思い、私とともに存在していけることがただただ嬉しい。その嬉しさが熱く、熱く私の中に広がっていきます。

もうすでに道ははつきりとしています。私の中で進むべき道、こうなっていくという道がはつきりとしているから、ただ私がするべきことは瞑想だけなのです。

目を閉じて、心を一点に向ける、合わせる。そうすれば私は広がっていきます。確実に喜びとともに広がっていく自分自身の世界を感じていける。この中に私は私を感じ、幸せ、喜びの思いは、ただただ、ありがとう、ありがとうと伝えてくれます。

ありがとうを伝えてくれる私に、私はまたありがとうを返します。

私は、こうして、ずっとずっと存在していくんだ、そう思えるそんな瞑想をする時間を、今、

私は私に用意しています。これほどの幸せはないと思っています。

五三、今という時を大切に、私へ私からのメッセージです。私は私を大切に、私は私とともに生きていける喜びを、今世の肉を通して感じていきます。

あと三十年ほど、私は、私の道をこの肉とともに喜び、喜びで歩いていくでしょう。この肉とともに意識の世界を自由に飛ばたいといける喜びを存分に感じていくでしょう。

肉体細胞から喜びを伝えてもらい、また私も肉体細胞に優しさを向けていく、共存共栄の時間を過ごし、田池留吉、アルバートの道をより深く進んでいくようになっていきます。

すべては意識の流れの計らいでした。私は意識の流れの中に、このようにして肉を持つたことに、ただただ感謝です。あと一度の肉も、もちろん、すでに喜びでその出番を待っています。

私の意識の世界は、もちろん、今、ともに田池留吉、アルバート、そして、次元移行、次元移行後を思い、ただただ喜びの中にあります。宇宙に広がる喜びを感じています。その喜びを再び肉を持ち、肉を通して感じ深めていける計画は、この三次元のフィナーレを飾

るに最もふさわしいものに仕上がっています。

あと、私は瞑想するのみです。瞑想を重ね、私は私の計画を粛々と進めていくだけです。お母さん、本当にありがとうございます。

五四、ホームページ、最後のほうの赤字部分に心を向け、瞑想をしました。

寄せては返す波のように伝わってくる田池留吉、アルバートの波動でした。

心がどんどん広がっていく、静かに、しかし力強く、どんどん私が広がっていく喜びを感じさせていただきました。心の中から突き上がってくる私、その私を感じ、本当に嬉しいです。

田池留吉の心が痛いほど感じられました。嬉しいです。ありがとうございます。本当にありがとうございます。こうして学ぶ機会をいただいていることに感謝です。

自然治癒力は喜びのパワー、喜びのエネルギー。私の中からそのパワー、そのエネルギーが滾々と湧いて出てくる、いいえ、その喜びのパワー、喜びのエネルギーが私なんだ、確実に、確実に心に感じられる瞑想の時間をいただきました。

私の心は、ただ一点を見つめています。その思いとともに私はこれからも存在していけることを感じながら瞑想を続けました。ともにある喜び、何とも言えない中に、ただただありがとうの思いが広がっていきます。田池留吉、アルバート、母なる宇宙、私の心に喜びとともに温もりが広がっていきます。

私は幸せです。本当に幸せです。心からありがとうと叫んでいるたくさんの宇宙達の思いを感じています。

五五、営業日誌を目にし、嬉しいと思わず心は叫びました。嬉しいです。ありがとう。本がアメリカに行くと思うだけで嬉しいです。

一足先に形となって、海を渡りアメリカに行ってくれると思うだけで、何だかとても嬉しいです。

来世の私の血が騒いでいます。来世、黒人街に爆発的な喜びが湧き起こる様子が、手に取るように感じられる。ああ、本当に来世の喜びが心にズーンと入ってきます。

今世、田池留吉の肉とともに、田池留吉、アルバートの世界を学ぶ段階を経てきました。心に広がり感じていくその世界を確実に私の意識の世界はとらえています。思えば嬉しい、思えば喜び、田池留吉を通し、アルバートの波動の世界を、今、私は喜び、喜びで感じています。

そして、さらには、田池留吉の肉がない状態で、この喜び、喜びの世界を心に広げていく大切な勉強が待っています。

心に響いてくる波動の世界を、自分の中に広げていく、肉があってもなくてもともに存在している喜びを、肉を通して確認させていただきませす。しっかりと確認しながら、私はこの肉を置いていきます。

ここまですが、今世の私の肉を持つてする学びの計画です。私は、自分のその計画を喜びながらやっていきます。

私は、アルバートを本当に心待ちしていました。アルバートの世界を本当に待って、待って、待っていたんです。その波動の世界を、今世、田池留吉が伝えにきてくれました。本当に嬉しいです。田池留吉を思うことは、アルバートを思うこと、アルバートは私のすべて

です。アルバートに反応していくこの心の中、私のすべてが本当に喜んでいきます。

来世、アルバートの意識が肉を持って、そして私もまた肉を持って、今世と全く同じように、この喜びのエネルギーとともに流していけることが嬉しくてたまりません。

五六、宇宙へ思いを向けること、最高に喜びです。お母さん、私は本当に幸せです。

たくさんの肉をもらいました。そして、今の肉を通し、私は、田池留吉、アルバートの世界と出会わせていただきました。その波動の世界、その宇宙を心に感じていける喜びを味わっています。

私は、今、本当に来世の私とともに歩みを進めていることを感じます。来世の私は、本当に宇宙への熱い思いを語ってくれます。

「宇宙は私達が本当に帰りたい懐かしい、懐かしいところなんだ、ほら、たくさんの私達がいるだろう。みんな、みんな、心の底からこの時を待っていたんだよ。宇宙を呼んでごらん。田池留吉、アルバートとともに宇宙を呼んでごらん。」

田池留吉の肉を通し、アルバートを感じている私の喜びがストレートに心に届きます。ア

ルバートへ帰ろうとするたくさんの宇宙達の喜びをストレートに感じます。

肉を持たせていただいたこと、本当に感謝です。

「ただ真っ直ぐに、アルバートです。」

田池留吉の世界から、私はそのメッセージを受け取っています。

宇宙を思い、次元移行を思う、心の底から喜びが突き上がってきます。

五七、とにかく嬉しいです。田池留吉の世界、田池留吉の宇宙に心を向ければ、私の中の宇宙は瞬間的に反応します。勢いよく異語が飛び出てきます。

はい、私のエネルギーを感じます。確かにすごいエネルギーです。しかし、それはもはや、田池留吉の世界、田池留吉の宇宙に歯向うエネルギーではありません。

だから苦しいこともなければ、恐怖でもなく、ただただ嬉しいだけです。ドーンと沈んだ世界ではなくて、躍動する心、弾む思い、待ってましたという喜びを一斉に伝えてきます。出会えた喜びをストレートに伝えてきます。そして、母の心を感じて、ああ、お母さんありがとう、心の底から叫んでいます。

そうです、田池留吉の宇宙に大きく包まれて、お母さん、ありがとうございますの思いが心の奥底から出てくるのです。

眩まぼゆいほどの明るさの中で、大きく解き放たれた中で、ただただこの世界が嬉しい、ありがとう、お母さん、ありがとうございます、お母さん、ありがとうございます、そう力強く伝えてくる宇宙達の思いを心に感じ、私はたまらなく嬉しいです。

これが私の現実、意識の世界の素晴らしさ、その私を感じ、それがたまらなく嬉しいです。打てば響く、すかっと爽やかな思いを心に感じ、すつきりとしています。

五八、肉のアルバートに心を向けて瞑想をします。

はい、アルバート。あなたの目はどこか遠いところを見えています。何かを考えているんです。あなたの目は遠いところを見つめています。

はい、私はアルバート、あなたに話しかけられるんです。ああ、しかし、私は、最初、一

瞬はあなたに私のことが分かってたまるかという思いを出します。お前に私の何が分かるんだという思いをあなたにぶつけます。はい、しかし、私のこの思い、あなたの目がすべてを吸収してくれるんです。

私は、その目を見ながら語るんです。分かってたまるものかという思いを語ります。語っていくうちに、私の心は、段々、段々広がっていきます。あなたの目を見ながら語っていく私の心は、段々、段々広がっていく。それを私は、今、心に感じていきます。

田池留吉、あなたに出会えた。あなたに出会えたことを思い出しながら、心を語る私の中には、大きな喜びが広がっていきます。アルバートに、私の思いをぶつけています。私の思いを語りながら、思いをぶつけながら、アルバート、あなたから優しい、優しい、何とも言えない温もりを心に感じていきます。

アルバート、私は幸せです。ありがとうございます。私は幸せです。

私は、アルバートとともに帰ります。お母さん、お母さん、アルバートとともに帰ります。嬉しいです。私のふるさとは、アルバート、あなたの中になりました。心の中になりました。私のふるさとです。ありがとうございます。

田池留吉、私は二五〇年後に生きています。心の中に、アルバートを呼べば、この思いを告げています。はい、嬉しいです。心の中に、アルバート、田池留吉、私はこの喜びを感じています。嬉しいです。ありがとうございます。

田池留吉の肉を通してアルバートを感じる今。そして、二五〇年後には、アルバートの肉を通して田池留吉を感じるのです。肉は違っても、心に響く世界は同じ。温もりと優しさ、そして、ともにある喜び。ああ、本当に今という一点に私達はあります。嬉しいです。本当に嬉しいです。ありがとう。アルバートは私のすべてでした。

五九、目を閉じてふうっと思いを向ければ、私はもう嬉しくてたまりません。

何が嬉しいのか、すべてが嬉しいんです。私がこれからどうなっていくのか、どう存在していくのか、それを感じるから心の中から、嬉しさが突き上がってくるということだと思います。

私は私を感じて、ただただ涙が溢れ出てきます。愛しい自分を感じます。ようやく、よ

ようやく、今世、自分を本当に感じ広げていける優しさと温もりの自分に出会ったことが、たまらなく嬉しいです。

それが、田池留吉、アルバートの世界でした。その世界に生きている私を感じます。

すべての私とともに次元を超えていく喜びを、私は私に伝えました。その喜びの思い、エネルギーが、今のこの肉に届きます。肉を持つている喜びと幸せ、それはまさにこのことでした。

そして、肉を持つ喜びと幸せを、来世の肉はさらに広げ、大きく感じていける中にあります。苦悩しているのは愚かな肉だと一瞬のうちに知っていきます。霧が晴れて突き抜けるような青空の中を、私は自由に本当に自由に心を全開していきます。

私達には喜びしかないと、宇宙に向けて発信していく肉となっていけるのです。私は私を全開して、肉とともに喜びのエネルギーを流していけると確信しています。その予習の時間を、今世いただいています。

六〇、今世は予習の時間。来世の予習の時間。その時間を目いっぱい有効に活用していくこ

とが私の喜びです。

そのために肉を持ってきた、そのために私は学びに集って来たのです。目的意識が明確に心に響いてくるのを何度も感じてきました。心の底から奥底から、喜びが伝わってきます。次元移行という意識の流れをはっきりと心に感じながら、私の学びはただひたすら進んでいきます。

ただひたすらに前を向き突き進んでいく喜び、それが私のエネルギー。

このエネルギーとともに、私は私の中をしっかりと受け止めています。

すべては喜びに帰る、この確信を心に樹立できた今世だと言えるでしょう。

田池留吉、アルバートとともに歩むこと、田池留吉、アルバートに心の針をしっかりと合わせていけることが喜びです。心の針を合わせ、それだけが喜びでした。

六一、ともにともに帰れることが嬉しい。宇宙よ、私に心を語ってください。

私達宇宙は、ともに帰れることを喜びとしています。

遙か彼方より、この地球、三次元にやってきました。心を見つめるためにやってきました。長い、長い時間を経てきました。私達の喜びを感じてくれているでしょうか。そうですね、感じてくれていますね。

今、私達は心に語っています。私達の思いを心に語っています。遙かなる宇宙より語っています。ともに帰れることを伝えていただきました。ようやく、その意識の世界を広げていける私達です。この三次元にやってきてよかったです。心を見つめることを促されてきたけれど、なかなか私達の思いは、なかなかでした。

真つ黒な暗闇の宇宙の中に沈んだまま、私達は長い、長い時間を経てきました。今世、一つの肉を通し、私達に真つ直ぐにその思いが届きます。喜びのエネルギーが届きます。真つ直ぐに私達に入ってきます。お母さんの温もりが入ってきます。嬉しいです。心の中よりありがたうを伝えています。

はい、私達の思いをもっと、もっと知って行ってください。ともに歩いていきましょう。喜びの思いを伝えてくれているけれど、はい、私達の思いをもっと、もっと、もっと、もっと受けて行ってください。

田池留吉、私の意識の世界はこの肉を離しても、なお田池留吉、アルバートを呼べることを確信しています。

私の中の田池留吉、アルバートの波動、その世界からのメッセージを受け続けるでしょう。私達宇宙は田池留吉、アルバートの世界より通信を受け続けていきます。受け続けていく中で、この思いを三次元の中に流していきます。はい、三次元の中へ流しつつ、この次元に來れなかった宇宙達に思いを向けていくのです。ともに帰れる時を目指して、私達はこの思いを流し続けていきます。宇宙が変わっていくと伝えました。今世を境に変わっていくと伝えました。遥かなる宇宙からの思いを伝えました。喜びで受けてくださいました。信じる思いを強くしていくこれからです。はい、あなたの肉体細胞とともに私達の思いをさらに伝えます。あなたの肉体細胞が活性化されていくのは、自然です。私達の思い、喜びのエネルギーはこの宇宙に広がってまいります。はい、今世という一点を境に、意識の世界の変革は起こりました。田池留吉、アルバートの意識が肉を持ち、その思いをしつかりと伝えることができました。ただただありがとうございます。この思いを喜びで広げてみてください。肉体細胞の思いに沿って、あなたの肉を動かしていくのです。肉は自然の流れの中にあるだけでいいのです。はい、心の世界、意識の世界は、田池留吉、アルバートへとしっかりと繋が

つていきます。心の向け先は間違いなく遙かなる宇宙、母なる宇宙、優しい母の思い、優しい、優しい温もりの世界、ふるさと、そこを目指して、ただただひたすらに歩いていくこれからの時間だと、私達は伝えました。

六二、田池留吉の世界に思いを向け、瞑想する。

心の向け先を、田池留吉の世界に合わせる。しっかりと合わせる。

田池留吉、はい、とても、大きな、大きなエネルギーを感じます。広がっていきます。私は広がっていく。この中に広がっていく。とても大きな、大きな世界です。心の中に喜びがどんどん湧いて出てくるのを感じます。

私はこの喜びのエネルギーでございました。ありがとうございます。アルバート、田池留吉ありがとうございます、ありがとうございます。

私は、この世界に心を向けてまいります。まだまだ広がっていくことをこの心は知っています。私の中は広がっていく。温かい、温かい温もりの中に広がっていく。お母さん、あ

りがとう。

田池留吉の世界からメッセージが来ます。

私は、田池留吉です。はい、心の針を、田池留吉の世界に合わせていけばいくほど、私
の世界をあなたが感じる度合いが大きくなっていきます。

心を向けるだけです。私はあなたにすべてを伝えました。田池留吉の心、田池留吉の世界、
その宇宙、あなたの心の中に伝えました。温かい、温かい、広い、広い、お母さんの温もり
の世界をただただ思い、心の針を向けるだけです。

あとは、そのまま、ただただそのままあなたの口から言葉を発すればいいのです。波動
が流れていきます。田池留吉の世界、アルバートの世界、私達の世界、一つになって、そこ
から流れる波動を私達は宇宙へ流していきます。

心に向けていくことをしてってください。

あなたの心の中は、もうその準備が整っています。どんどんどんどん瞑想を繰り返し、私
に心を向けるだけで、田池留吉の世界が語ります。アルバートの世界が語ります。

あなたはあなたを思い、ただただ喜びを流していくだけです。

私の世界は喜びだけと私は伝えました。その喜びを流していける、そのことを伝えました。これからのあなたは、もっともっとすごい世界を感じていくでしょう。肉のあなたは驚きます。まず肉のあなたが驚きます。しかし、私はあなたに伝えます。心の中より田池留吉、アルバートを呼ぶ、田池留吉、アルバートに心を向ける、ただただそれだけです。それだけでいいのです。すべてすべては整っています。

六三、来世の私を生んでくれた母を思います。

私はこんな環境に生まれたくはなかった。生まれたくはなかった。なぜ私はあの母親から生まれてきたのか。

はい、そうです。今世と同じ心を使います。私は目の前にいる母親に私の思いをぶつけます。私を何で生んだ。何でこんな環境の中に生んだんだ。ああ、しかし、あの母親は、本当に、本当に私の中で、本当に、本当に苦しい、苦しい思いだけを見させてくれるんですよ。はい、

あんな母親なんか要らない。私は要らない。要らない、要らない。ああ、そうです。この心をずっと、ずっと、ずっと抱え持っています。

今の目の前にいる母親、ああ、ふしだらな母親なんです。私にはとても、とても受け入れられない。私は、もつともつと立派な母親に生んでほしかった。お前なんかに生んでもらったから、こんな苦しい私があつたんだ。ああ、こんなに苦しい私があつたんだ。ああ、すべて、すべて母親のせいにしていくんです。

どれだけ、どれだけ母を憎んでも殺しても、殺し切れない母親がまだ目の前にいるんです。苦しいです、苦しいです、苦しいですよ。あんな母親、何で私の母親なんだ。この思いが私の中から消し去ることができない。だから、私は母を見ずに生活するにはどうすればいいのか。あの貧しくて汚くて、汚くて何とも言えないところから飛び出します。私は、本当に身一つで飛び出します。どこでもいい。私の身体を使ってくれるところなら、私の身体を使つて、使つてくれるところならどこだっていい。何だつてする。私はそうやって街をぶらつきまします。私はあの家から飛び出たかった。飛び出たかった。苦しくて、苦しくてなりませんでした。

私には未来がない。あんな家には、私には未来がない。未来がない。明るい未来がない。

明るい未来などどこにもあるもんか。私の未来などどこにもない。そうやって、私は、あの家を飛び出ていきます。

飛び出て、街をぶらつきまます。しかし、そこにはもつと、もつとすごい凄まじい世間がありました。ああ、みんな、みんな苦しいんだ。苦しい中で生活をしているんだ。私はそんな世間を垣間見ていきます。

本当に、荒んだ凄まじい生活だった。ああ、みんなみんな苦しい生活の中にあつたんです。この心の中が苦しいのはなぜなのか。なぜなのか、なぜなのか、なぜなのか、心が苦しいのがなぜなのか分からなくて、もう私はどうにでもなれと街をぶらつきまます。そんな時、アルバート、あなたに会いいます。

私は家を飛び出ます。家を飛び出でどこへ行くあてもなく、街中をぶらつきまます。苦しい心を抱え、私は、もうどうにでもなれという思いでぶらついている。そんな中、アルバート、あなたと会いいます。

はい、私の心の中を少し語らせていただきました。ああ、こんな苦しい心、今も今も私の中にあるんですね。そう言えば、今世の私も同じでした。ただ、その行動ができなかった

だけです。心は同じでした。苦しい、苦しい中にありました。今、私は、その思いを語りました。ありがとうございます。これから私はこの思いをずっと見ていきます。来世の私とともに見ていきます。

来世の私が語ります。

私の中に優しい私が存在しています。優しい、優しい私が存在しています。私は、その優しい私と出会うんです。ああ、私の中に優しい私があるんです。ああ、そう言えば、あんな醜いふしだらな母親の中にも、優しい、優しいお母さんがあったんだなあ、私はふっと、あの母親を思います。

あの母親の中にも、私が今感じている思いがあったことを、私は心で知ります。ああ、お母さん、あなたも苦しかったんだ。苦しかったんだ。私と同じように苦しかったんだ。あなたも母親の温もりを忘れてきたんだ。そうやって、私は母を思うんです。ああ、そうだ、私と同じ優しい心がああ母親にもあったんだ。私はそこからこの温もりの世界に自分を導いていきます。

お母さん、お母さん、私はお母さんにありがとうございますを伝えるでしょう。

きつと、きつと、あなたにありがとうを伝えるでしょう。ふしだらな母親でよかった。私の醜い心を見せてくれた。私の凄まじいエネルギーを見せてくれた。

あなたを殺しても、殺しても、八つ裂きにしても、なおその身体、そのすべてを私の中で切り殺し、突き刺し、焼き殺しても足りないぐらいのエネルギーをあなたは、その肉体を通して、私に教えてくれた。その優しさが私にはたまりませんでした。お母さん、ごめんなさい。お母さん、ごめんなさい。

ああ、お母さん。私は、あの母親にこの肉体をくださいと願い出たことを思い出します。来世の私は思い出すんです。ありがとうございました。ありがとうございました。私はこれで救われます。私のすべてが救われます。ありがとうございました。母の温もりがすべてでした。お母さん、ありがとうございます。

私が計画してきたこと。ああ、お母さん、ありがとう。ごめんなさい。

田池留吉、アルバート。私は嬉しいです。ありがとうございました。田池留吉の世界へ心に向けてまいります。

吐き出した思いに向けて再び瞑想をしました。

過去はもちろんですが、来世の私が今世の私とともに学んでいることを心から感じます。田池留吉、アルバートの意識が肉を持つてくる二五〇年後に合わせて肉を持つてくる意味が分かります。

アルバートの目と出会い、時を置かず意識の転回を果たし、不死鳥のように蘇ってくるシナリオを自分に用意しました。今世の予習の時間、大切にします。

六四、私は、宇宙と思うだけで心が広がっていきます。宇宙は優しい。宇宙は温もり、そして喜び。

田池留吉、アルバートを思うことは宇宙を思うこと。私にはだからたまらなく嬉しい、喜びの時間です。

田池留吉、アルバートの世界、その宇宙に心を向けること、それはたまらない喜びです。どこまでも、どこまでも限りなく広がっていく世界。どこまでも、どこまでも限りない温もりが広がっていきます。

私は、これが私の世界なんだと知っています。だから私は私を思い、ただただ嬉しいです。

私は、今世、セミナーという時間と空間を通し、喜びの自分と出会わせていただきました。肉は相変わらず愚かです。しかし、私は私の計画してきた予定してきた道を、今、順調に歩んでいます。

私達宇宙は、その変革を、今世計画してきましたのです。結果、暗黒に沈んだ宇宙に、ようやく一筋の灯りを灯しました。まさに宇宙に風を呼び起こしました。

田池留吉、アルバートの意識との出会いは、本当に最大のイベントでした。アマテラスの国日本で、ともに肉を持つて出会わせていただいたこと、心より感謝します。

今世を境にして宇宙が変わる、その計画をこの場所、アマテラスの国日本で遂行されたことに、ただただありがとうございます。

私は、これからも宇宙に思いを向け、宇宙にこの喜びを伝えてまいります。アマテラスの国日本から、どんどん宇宙に喜びのエネルギーを流していきます。アマテラスの崩壊が嬉しくてたまりません。目に見える形となっていくのを喜びで見つめていきます。ようやく、今世そこまで辿り着きました。私はそれを淡々とやっていく中で、さらに私の意識の世界は広がっていくことを知っています。

そして、あとは時が来れば、肉を離していきます。田池留吉、アルバートに心の針を合
わすのに肉は要らないことを、私の中で実証しながら、来世の肉を持つ時を待ちます。私は
それを思うと心が踊ります。

しかしながら、その間の様子を、もう少し自分の中で具体的に感じていく勉強が私には
残されています。

瞑想を重ね、地球上に起こる天変地異のエネルギーを感じていたり、来世アルバートと
の出会いから、真実の波動が伝わっていく経緯をもう少し具体的に語ったりしていけば、肉
を持たない時間の存在が、大変重要なことが、この愚かな肉もはつきりと感じていくだろう
と思います。肉にその点をはつきりと伝えていけば、私は私の勉強の奥深くに進んでいく喜
びを、支障なく味わっていけるでしょう。

六五、今世、私は学びをするにあたり、ほとんど何も支障のない肉と環境を選びました。今
世が私にとってどれだけ大切かを知っていたからです。

時間的余裕、経済的余裕、健康面、肉的能力、一応一通り条件を揃えています。これで

学びがスムーズに捗らなかつたら、全く私の怠慢です。

一番大切なセミナーも、本当に私にはタイムリーなものでした。学びに集うタイミングから始まって、鈍感な肉を選んできたからよかつたのです。今世は鈍感な肉でよかつたのです。見えたり聞こえたり、訳のわからないことを語ってこられたりしたら、私の計画はずでに頓挫していました。

凄まじいエネルギーを心に受け止め、そして、それを本来の自分のエネルギーに変えていくために、まだ今は鈍感でいいんですと、当時、私が私に伝えていたことを思い出します。ただし、来世の肉は違います。アルバートの肉と同様、私も敏感な肉を選んできます。また、中のエネルギーを吐き出し、そして、肉から意識への転回を一瞬のうちにするために、今世の私とは比べることができない状況の中に身を置きます。ああ、だからいいんです。すごいシナリオを自分に用意したと思っています。

どうにでもなれとハドソン川の川面を見つめ、今にもこの世と、おさらばする瞬間に、私の方が一八〇度変わる体験をさせていただきます。

興奮し混乱した私の心をただなすがままに、どんどん語る私に、伝わり響いてくる思いがあります。

それは、目の前にいる青年を通して語られているようでもあり、私の中からどんどん出てくる思いでもあります。

語っている私とは別の私がそこに存在しているのです。そして、彼も同じことを感じるようです。

私達は、そこにどれほどの時間立ち尽くしているでしょうか。

そして、次から次へと溢れ出てくる思い、その思いをどんどん語っているうちに、私は、妙に懐かしさが込み上げてくるんです。この懐かしい思いはどこから来るんだろうか。何を
見て私は懐かしいと思っているのだろうか。

ああ、この目だ。この目。今私が見ている目。私はこの目を知っている。この目の中に、どこか遠いところ、遠い時間、遠い自分を思い出します。本当に嬉しい瞬間です。

その瞬間に、私はもうどんどん語っていた言葉が出なくなります。出せなくなります。心の奥底から湧いて出てくる思いは、もうどんな言葉にもなりません。ただ嬉しい、嬉しい、ありがたい、出会えた、本当に出会えた、その感動が私の中で爆発していくからです。

言葉はまどろっこしい。瞬間、今世の記憶が蘇ってくる。それは同時に私の意識の目覚めということになります。

肉の殻を突き破れば、出てくる、出てくる、今世の学習したことがどんどん飛び出てきます。もうそうなつていけば楽しい、嬉しい、ありがとう、ありがとうと、狂わんばかりに喜びのエネルギーが炸裂していくだけです。

六六、田池留吉に心を向け、父に思いを向けてみます。

塩川真太郎さん、分りますか。私はあなたに伝えました。二五〇年後、あなたは、アルバートと出会うことを私はあなたに伝えました。

今、田池留吉、アルバートとそう呼びながら、あなたが肉を持つてくる二五〇年後に、そのほうに少し心を向けてください。私もともに向けてみます。

異語。

はい、私は今感じています。思いを向けてみなさい、そのほうを思ってみます。お母さん、

お母さん、はい、私は母を呼んでいます。お母さん、お母さん。

はい、はい、語らせていただけませんか。嬉しいですよ。語らせていただけませんか。嬉しいですよ。嬉しいですよ。私はあの街に肉を持っていきます。はい、私もまた肉を持ちます。苦しい中に肉を持ちます。私は、この肌が悪い。黒い肌を持って生まれてきます。そうそこには何もありません。貧しい、貧しい、貧しい家に私は生まれてきます。私の心の中に、今その思いが出てきます。語らせていただけること喜びです。私はそれまでに何度かの転生を繰り返します。心を閉ざす私にも、また心を開いていけるチャンスを持って生まれてきます。私の心の中に、田池留吉、アルバートと素直に呼べる私があることを、今、心に感じています。

苦しい中にあるけれど、心を母に真っ直ぐに向けて、私は心から叫べるチャンスに恵まれます。それが私の二五〇年後の来世でございます。

心苦しく、貧しく、のたうち回りながらも、母を素直に呼べるチャンスに出会えるのです。はい、その時、どこからともなく、その喜びの思いを感じる二五〇年後の私を、今、心に感じています。今、心に感じる思い、嬉しいですよ。

お母さんを素直に呼んでごらんさい、私はどなたかに、そのように伝えていただくのです。私は、そのように伝えていただきます。それがあなたでしようか。

それがあなたなんですか。今私に語ってくださいと伝えてくれているあなたなんですよか。私は、そのように感じています。

異語。

田池留吉、アルバート。私はこの父の意識が肉を持つ、その肉に今、出会っています。二五〇年後、確かに私は、私の今世の父に出会います。

六七、塩川真太郎さん、今あなたに思いを向けています。語りかけています。分りますか。あなたの心に届いていますか。どうぞ、心を語ってみてください。

異語。

はい、温かい温かい温もりを感じます。ありがとうございます。

また語らせていただけると嬉しいです。ありがとうございます。

異語。

はい、お父さん、私達は二五〇年後に、アルバートに出会うことをすでにあなたに伝えました。あなたの意識の世界に伝えました。どうぞ、そのほうに思いを向けてみてください。

異語。

はい、はい、はい、はい、はい、嬉しいです。嬉しいです。心の中に届く思いがあります。私の心の中に、アルバート、アルバート、アルバートと出てきます。アルバートとは、私は、何かよく分らなかつた。そうですか。私は、これから、このアルバートという人に出会うんですか。嬉しいです。嬉しいです。嬉しいです。

異語。

お父さん、そうです。二五〇年後に、あなたはアルバートという人物に出会いますが、その間、あなたは幾度か転生をしていきます。あなた自身も語ったように、おそらく中国でしょう。その場所で、あなたは宗教家として、自分の心、思いの中にある闇、神、仏を求めるブラックの思いが、どれだけ凄まじいものなのか、肉を持って知るようになってきます。その転生があります。あなたと中国とは本当に遠い昔から、たくさん、たくさん繋がっていた、私はそう感じています。

あなたの中にある神、仏を求める心、間違った苦しい修行の中にあつた心、その心を見つめるために、あなたは中国へ、そして、さらにはもっと宗教色の強い場所に、あなたは転生をしていくでしょう。

その心のまま、あなたは、二五〇年後、アルバートと出会います。アルバートの肉により、あなたの中の凄まじいエネルギーを見させてもらうんです。

自分の中の間違ったエネルギーで、自分をずっと、ずっと殺し続けてきた。そのすごいエネルギーが、アルバートの肉により、あなたの中から噴き上げます。そのことをあなたに伝えたいです。

異語。

はい、そうです。私はこの心の中に神、仏を求める思いがとても強いです。手を合わせ、念じ祈ってきた心。その心、そのエネルギーを自分の中に蓄えています。その苦しさを、私は、今、心で味わっています。

自分の上に大きく、大きく覆い被さる重い、重い、息もできないほどの重圧のエネルギー、それは、私がこの宇宙に流してきたエネルギーだと、私は伝えていただきました。

今、私は、そのエネルギーの少し隙間、ほんの小さな間から、温もりを伝えていただいています。お母さんのほうに心を向けてごらんという思いを感じさせてくださいました。私は、今もその思いを感じています。

だから、私はこのように語ることができません。私のこれからの転生の中で、私はさらにこのエネルギーを自分の中で見つめてまいります。

苦しい、苦しい転生となりましょう。しかし、私が今、感じている二五〇年後の自分の来世、その来世に心を向けることが喜びだと、今、一方で伝わってきます。間違って、間違い続け

てきた私のすべてを、アルバートと出会う二五〇年後に、私は自分で包み込む、その優しい、優しい私の計画があります。嬉しいです。今、伝えていただきました。ありがとうございます。私は、はい、アルバートと出会います。はい、そして、もちろん、今、伝えてくださっているその人にも出会います。ありがとうございます。

あなた達に出会えることを楽しみにしております。

六八、アマテラス、アマテラス、アマテラス、アマテラス。

今世、一つの肉を通して、アマテラスの心を語らせていただきました。苦しい、苦しい心の中を語らせていただきました。アマテラスは、今世を境に蘇っていくと申しました。

そうです、宇宙へ向けるエネルギー、そのエネルギー、アマテラスのもとからエネルギーの質が変わりました。

宇宙へ流れるエネルギー、アマテラスの心は喜びです。

アマテラスへ心に向けることを、もっと、もっと皆さん心からやっていってください。あなたの方の心の中に、アマテラスの心がまだまだ鎮座していることを、私は伝えます。心の中

のアマテラス、そのアマテラスに喜びのエネルギーを伝えていきなさい。伝えていくことが、あなた方の役目です。私達、日本に生まれたこのこと、このことを心でしっかりと知っていきなさい。

アマテラスの心、はい、宇宙へ、宇宙へ心を向けていきましょう。しっかりと心を向けていきましょう。

田池留吉、アルバートの世界、もっと、もっと、もっと、私の中で広がっていきます。田池留吉、アルバートの世界はすごい、すごい、すごい、すごい、すごいエネルギーです。心の中に感じている私、はい、私はとても喜んでいきます。

はい、私の中にすべてがありました。二五〇年後、次元移行、次元移行後、私の中ですべてが語っています。

心の中に、どんどんどんどん、どんどんその思いを知っていくでしょう。私はすごいです。すごいエネルギーを持っています。

田池留吉、アルバート、アマテラスの心を、一つ語らせていただくことで、こんなに私の心は、どんどんどんどん広がっていくのを感じます。

どんだんどん心は語っていくんです。

ああ、私は、私はこの宇宙の中に生きています。宇宙の中に生きています。田池留吉、アルバート、私は宇宙の中に生きています。宇宙は私です。はい、私は宇宙。私は宇宙。

はい、その思いがとても嬉しいです。心の広がりはととても大きなものです。私は宇宙、この思いを、もっと、もっと、私は伝えたい。

小さな、小さな日本の国だけではなく、この地球上に生存している意識達、そして、地球にやってこなかった意識達、すべてに伝えてまいります。

それが私のこれからの近未来。この思いがこれから二五〇年後へと続いてまいります。

私は宇宙でございました。田池留吉、アルバートの宇宙の中に存在している、大きな、大きなエネルギーでございます。アルバート、ありがとうございます。田池留吉、アルバートありがとうございます。

私は、今のこの肉を通して、もっと、もっと、田池留吉、アルバートの宇宙を感じているでしょう。

心から語りなさい。語りなさい。あなたの過去よりの思い、未来へ続く道を、もっと、も

つと素直に語っていきなさい。あなたが目覚めていくことが喜び。私達に近づけば近づくほど、そのエネルギーは、この宇宙に流れていくことを私達は伝えました。

「あなたはあなたの世界を心で知っていくでしょう。田池留吉、アルバートとともにあるあなたであることを、もつと、もつと心の中より知っていくでしょう。一つの肉を通して、伝えていただける私達は幸せです。あなたはあなたを知っていきなさい。」

六九、塩川真太郎さん、私は今、その意識に思いを向け、心を語ってみたいと思います。どうぞ、塩川真太郎さん、その意識、私の思いを聞いてください。

今世、あなたは肉を持ち、私の父として私の目の前に現れてくれました。私はあなたの肉を通して、様々な心、様々な思いを出させていただきました。肉の母に出してきた思いとはまた別な意味で、私の心の中の、暗い、暗い部分をあなたの肉を通して、見せていただきました。本当にありがとうございます。

そして、あなたは、今世、あなた自身の「病」と「死」という現象を通して、私に色々勉

強させていただきます。本当にありがとうございます。

今、私は、あなたの意識を心で感じ、受け止めることができるようになるまで成長させていただきました。意識の世界の存在を心ではっきりと感じる私にならせていただきました。あなたの意識に向けて、私の思いを語っています。どうぞ、私の思いを受けていってください。

私は喜びです。田池留吉、アルバート、真実の波動の世界を心に受け、我が道を一步、一歩着実に歩んでいく幸せの中にあります。

あなたに思いを向けた時、あなたの意識の世界の暗さ、苦しさ、重さ、様々感じますが、あなたもまた私と同じ、その心の中に母の温もりをしつかりと蘇らせ、本当の自分の姿に出会えたならば、私が今あなたに伝えていることは、本当によく分っていただけだと思います。

私は、これからも、あなたの意識の世界に思いを向けていきます。

私の心を感じ広かった思い、優しさ、温もり、あなたをふっと思うことにより、あなたに伝わっていくと確信しています。

どうぞ、心を母のほうに、優しい、優しい母の温もりを持つあなたを思い、今、あなたの中で苦しみ喘いでいる自分自身を、どうぞ、これからの転生の中でひたすら見つめていっ

てください。

異語。

私は、塩川真太郎の意識。ありがとうございます。心の中に伝わってくる優しさ、温もり、波動の世界。私が心に広げることのなかったものを、感じさせてくださいました。また、いただいています。嬉しいです。

このように語らせていただけること、私はとても喜んでいきます。心に届きます。温かい優しい温もり、はい、少し、たった少しでも私の中に入ってくれば、私は、このようにして語るができます。

はい、私は今、重い、重い中がありますが、それもまた、私のこれから、自分を見つめていく中で、この固い、固い殻を破っていけることを信じています。どうぞ、私のことをいつも思ってください。

私は今、あなたに伝えます。ありがとうございます。私はあなたに伝えます。ありがとうございますの思いを伝えます。

お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

お母さん、ありがとうございます。

ああ、私は温もりを求めてきました。温もりを求めて過去から、たくさんの転生を繰り返してきた意識でございます。

私は温もりを求めてきました。温もりを忘れた私は、本当に今、苦しい中にありますが、温もりを求めてきた私を感じさせていただきました。

あなたが語られたように、私のこれからの転生にこの思い、この心を繋いでまいります。ともに、ともに学ばせてください。ともに、ともに学ばせてください。

私に心に向けてください。私もまたそれに応えていきたいと思えます。ありがとうございます。いました。

七〇、私は私の宇宙を感じることができて幸せです。私は私自身を感じることができて幸せです。

この意識の世界が、二五〇年後にまた肉を持って、大きな仕事をしていけることが喜び

です。

そのために、今の時間があります。今、肉を持ってしっかりと私の勉強をしています。こんな幸せなことはありません。

二五〇年後の肉は、衝撃的な感動的な出会いにより、自らを目覚めさせます。

まず、自ら死を選ぼうとした自分に深い懺悔です。そして、私は、私を生んでくれた母に、本当に心の底からありがとうを伝えます。母は、私に健康で聡明な肉をくれました。私にはそれだけでよかったです。その肉がありさえすれば、私の喜びのエネルギーはつつがなく発信していけることを心で知るからです。

肉をくださったこと、私の願い通りに生んでくださったこと、私は、私の心からの喜びを母に伝えます。まずそこからスタートです。

そして、喜びは、私が生まれ育った黒人街から爆発的な勢いで流れていきます。

私は、資金的、物質的な援助、支援の中で、自分の進むべき道を、喜び、喜びで突き進んでいきます。私の中から、もうこうして肉を持つてくることはないことをはっきりと伝えられるから、私は、そういう援助、支援を有効的に活用させていただきま

私は私に備わっている若さと身体の元気さと、そして、程よい頭脳の働き、そして、何

よりも一番大切な敏感に反応する心、意識の世界をフル回転させていきます。こうして、人々が真実に触れていく舞台設定は自ずと整っていくのです。

私達の真実の世界の発信は、まず、今よりもはるかに進んでいる通信の世界に乗せていきます。最初は民間人レベルのところ、色々やり取りしますが、それが何かのきっかけで公共の場に紹介されるようになるのです。ご承知のように、二五〇年後に肉を持つてくる人達は、もちろん、それまでに何度かの天変地異を体験してきます。それも本当に度肝を抜くような体験を重ねて、二五〇年後に生まれてくるのです。その意識の世界は、もうカラカラに干からびた状態です。そこに僅か一滴でいいんです。一滴の滴、その一滴の滴を落とすだけで、反応していく人達がいま。メディアに乗って流れてきた話、いいえ、波動の世界に反応していくのです。それはその人達が、この二五〇年後に辿り着くまでに、哀しいまでに真実を求めて苦しみ喘ぎ続けていく時間を経てくるからです。

私達との出会い、そして、私達と一言交わすことにより、その人達の心の窓は開いていきます。中からブラックの凄まじいエネルギーが噴き出してくるけれども、それは本当に短時間のうちに喜びへ変わっていきけるということです。時節到来というか、人から人へ喜びが伝わっていくスピードはとても速いです。

逆に言えば、それほどこれから二五〇年後に至る間の転生の時間は厳しく険しいということでしょう。人間の心の中に眠る他力のエネルギーをしつかりと体験していく時間と空間を経てこなければ、私達の呼びかけに応じていくことはできないということでしょう。

私達はたくさんの人達（意識）と出会っていきます。直接的に、間接的に、私達の存在を多くの人達の目に触れ、耳に触れていくチャンスがたくさん持っています。

七一、私の心、思いはずでに、二五〇年後、次元移行、次元移行後を見つめ、そこを中心に、心語っています。

私の勉強は、田池留吉の死後、自分自身の肉を置いていくまで、そして自身の肉を置き、二五〇年後の肉を持つまでの間、この二点に絞られてきました。

その私の勉強は、しつかりとクリアできて、私は、私の思いは二五〇年後、そしてその後へと喜びで続いていることを確信しているけれど、準備を入念にすることに喜びを感じています。

アルバートの世界を待って、待って、待ち望んできた私にとって、本当に今世はすごい

時間と空間でした。私の意識の世界が確実に、アルバート、喜びの世界の波動に触れ、その世界をまっしぐらに進んでいる現実には、本当にすごいと思います。

ゆったりと時間を取って瞑想をするときも、そしてまた、ふっと心を向けるとときも、私の中に広がっていく世界があります。二五〇年後はもちろんのこと、永遠にもある喜び、その意識の世界からのメッセージを、私は私の心は波動で受けています。ただただ嬉しいです。

本当に、今世という時をありがとう。過去からの私、未来の私、すべてがそう伝えてくれています。

七二、二点に絞られた私の勉強、特に、田池留吉の死後、私自身の肉を置いていくまでの間、私には、非常に大切な時間です。田池留吉の肉はない、そして私の肉はある、その時点での学び方が非常に大切だと認識を新たにしています。

それは、まだ現時点では、私の肉の心は、私の意識の世界の歩みと幾分足取りが揃っていないと感じているからです。意識の世界の不動を感じるがゆえに、肉の心の脆弱さもふっ

と感じます。

その辺が私の課題です。私は、意識の世界の素晴らしさ、すごさ、広さとか温かさ、温もり、喜びを感じ、その世界からたくさんメッセージが来ます。それを私のこの肉は、まだ完全につまり一〇〇%そのまま受け止めていません。それが肉の愚かしさと言えばそれまでですが、その部分を、もう少し瞑想を通して、勉強していかなければならないと思っています。

(私の意識)

私その肉の思いとは関係なく、私の意識の世界は、どんどん進化していくでしょう。だから、それに伴い肉も成長していく楽しみがあります。

(私の肉)

何も案じることはないと伝わってきます。これまでに私が学ばせていただいたことを、ただ淡々とやっていけばいいと伝わってきます。

(私の意識)

心の針を向け、心の針を合わすだけ、私は肉にそう伝えました。肉はただ素直にそれをやっつけていけばいいだけです。

(私の肉)

私はこうして、自分の中で対話しながら、一步を進めていきます。それしかない、そして、そうできることを喜んでいきます。

そして、瞑想をします。心を向ければ、確実に感じ広がっていく世界、宇宙があります。喜びの私、温もりの私を感じています。

田池留吉に心を向ければ、異語とともに心が、宇宙に広がっていくのが分かります。アルバートを一斉に呼んでいる喜びが伝わってきます。そうです、宇宙です。宇宙を感じる心、これこそが私の喜びだと心に伝わってきます。

そして、今、私にアルバートからのメッセージが届きます。

どうぞ、アルバートの意識に心を向けることにより、あなたの心の世界をしっかりと見

つめていってください。

はい、二五〇年後はもうすでにあなたの中で始まっていることを、私、アルバートに心を向けることにより、ますます実感されていくよう、私は願っています。

アルバートに意識を向ける、アルバートの思いを聞く、アルバートの波動を受ける、その作業を通し、二五〇年後に生きるあなたの世界を、そうすべての意識達にその思いを伝えていきなさい。

心の中にアルバートが生きていることをしっかりと伝えていくのです。

あなたの肉を通して語ります。私、アルバートの意識が語ります。心をずっと、ずっと広げて私、アルバートのほうに心を向けなさい。あなたの中に語ってくる私の思い、私の波動をどうぞ、心で受けていってください。それをただただあなたは、言葉にすればいいんです。

あなたの口から出てくる言葉、その言葉により、あなたの肉がどのような思いを広げていくか、それはまたあなたのお勉強です。

そのようにして、あなたはあなたの勉強を通して、心で感じたことを言葉にし、またその言葉になったものが皆さんの目に触れ、耳に触れ、皆さんの心でまたそれを感じていく、そのようにしてこれからの勉強を、私達は進めていききたいと思えます。

私、アルバートは語ります。喜びの思いで語っています。

心の中でアルバートと素直に呼んでいってください。どうぞ、どうぞ、これから時間を見つけては、アルバートに心を向ける、そうです、アルバートを呼ぶ、しっかりと心にアルバートを呼んで、私の思いを受けていってください。私は喜びで語ります。あなたの中で語っているアルバートを、はい、どうぞ、あなたが信じて、信じて、信じて、信じて、信じ切るまで、私のほうに心を向けること、今、あなたの肉がそれをしていくことが、これからの二五〇年を変えていく、私はそのようにお伝えします。

七三、ああ、私は喜びで自分の心を見つめ、自分のやるべき課題に向けて進んでいけることが喜びです。

心に田池留吉、アルバートの思いを感じています。その世界の喜びを私の意識の世界は確実にとらえています。

だから、瞑想が楽しいです。瞑想は私にたくさん宇宙との出会いを感じさせてくれて、その宇宙達の喜びを感じさせてくれるからです。

私は宇宙達との出会いを待っていました。三次元にやってきた私は宇宙達との再会をずっと、ずっと待ち続けてきました。

私の愚かさにより、なかなかそれが実現しなかったけれど、ようやく今世という時間と空間の中で、私達は出会い、そして私はこの心に感じ広げている思いを伝えることができた。

これからの時間、次元移行に向けて、田池留吉、アルバートの意識とともに進んでいこう、私達は、瞑想をする時間の中でそのように伝え合っています。

田池留吉、アルバートありがとう。心の中に喜びが、温もりが確かにあることを伝えてくれました。田池留吉、アルバートは宇宙、真実の宇宙の喜びと温もり、そして広さを伝えてくれました。

すごいパワーです。そして、この喜びのパワーは私達だった、その思いがどんどんどんどん宇宙を広げていけることを感じます。

喜びのエネルギーに満ち溢れていた世界、温もりが滾々こんこんと湧き上がってくる世界、今、肉を持って感じる事ができて幸せです。

瞑想をして、私の意識の世界を感じていけば、肉の思いなど取るに足らないものです。しかし、だからこそ、その肉とともに、今学びを進めていける喜びがあります。取るに足らないものに自分を見失ってきた愚かさを、私は今愛しく見ています。

私の意識の世界、ここを感じ知りそして広げていけば、私はもう宇宙にさ迷うこともなければ、宇宙の中で固まった状態でもありません。

ただひたすら、心に向けることをやっていける、そうすればどんどん喜びの中にあることを感じ、宇宙は無限大に広がっていく、私はそれを自分の心の中で知りました。

楽しいです。嬉しいです。宇宙を知っていくことは喜びをどんどん知っていくこと、そう私の中から伝わってきます。

七四、くつきりとはつきりとした富士の山を、私はこの目に、そして、この心に留め、この学びを始めました。

まさにアマテラスの心をしっかりと見つめていくように、私は、学びのスタートを切つ

たのです。そのスタートにふさわしい富士の山、今でも心に浮かびます。

はい、今、富士の山に心を向けます。

私の中で、その姿、気高く、麗しく心の中に留めてきた富士の山も、その中から勢いのあるマグマが今にも噴き出す、その瞬間を待っています。その思いを私の心は受け止めます。

日本人の心に、富士の山は気高い姿として残っています。まさしく、日本の象徴です。日本と言えば富士の山。富士の山と言えば日本。

そのアマテラスの心を富士の山は、見事に覆っていきます。その美しい姿を留めることなく、中からのマグマにより、粉々になっていきます。その地響きは、日本列島に響き渡ります。

その思いは、ようやく、ようやく、この山の姿を崩していける、富士の山の喜びの思いです。喜びの声を私は聞いています。

人々の心を、一身に集めてきた富士の山の苦しさ。ああ、しかし、富士の山はその苦しさをすべてその懐に包み込んでくれました。

もういいんですよ。もういいんです。もう、あなたの姿、その姿を崩すことにより、日本人の心に、アマテラスの崩壊を告げなさい。

意識の世界にしっかりと告げていこう、そうやって、富士の山は自らを滅ぼしていきます。その思いは、大きな喜びです。とても優しいです。日本人の間違った信仰に歯止めをかけようとしています。しかし、まだまだ富士の山の思いをしっかりと心に受け止めていく日本人は少ないです。

しかし、どこかが、何かが違っていることを、その崩壊を見て、それぞれの心に何かを感じてくれると思います。

富士の山よ、ありがとう。心からありがとう。ありがとう、ありがとう。私達の思いを受けてくださいました。心の中の重い、重い、苦しい、苦しい間違った信仰、その思いをしっかりと受け止めてくれてきた富士の山よ、あなたの役目は、もうそろそろ終わりにきています。どうぞ、私達にその姿を通し、最後の喜びを伝えてください。富士の山は喜びです。喜びで噴火していく、その思いを私達は、しっかりと受け止めます。アマテラスの心を心として生きてきた意識達に、しっかりと届いていくでしょう。

アマテラスの崩壊は、喜びです。喜びでアマテラスは崩壊していく。アマテラスの世界が崩壊していくことが喜び。そのように私達は受け止めていくはずです。

心の中に喜びの思いが広がっていきます。お母さん、ありがとう。富士の山よ、ありがとう。ありがとう、ありがとう。私達の心の歴史に、今、今、ありがとうが伝わっていく、そのようにメッセージを送ります。

七五、私は、パソコンを目の前にして涙が溢れ、声を上げて泣きました。嬉し涙が溢れてくるのです。

こんなこと初めての体験です。自分が送った文章、何度も目にしてきたけれど、今、初めて私は私の思いに触れた、それが心から上がってきます。

アルバムでした。私の中にアルバム、その思いが、今、大きく、大きく、私を変えようとしています。私の中から今、突き上がってくる思いは、これまで何度か、何度も、アルバムに思いを向けてメッセージを受けてきたものとは、また一段と違っているようなそんな気がします。

私は、本当にアルバートを求めて、今ここにいる、過去からの私、未来の私、宇宙、みんなみんなアルバートを求めて、長い、長い時を経てきたことを感じずにはいられません。ただただ嬉しいです。そして、ありがとうございます。アルバートへの思い、宇宙への思い、私にただただ喜びと温もりを伝えてくれます。

愚かな肉でいいよ。でもこんなに喜んでいる私達がいることを、あなたの肉に伝えていきます。

私は本当に幸せ者です。喜びをいっぱい、温もりを満杯、そんな意識の世界に生きています。嬉しいです。ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

七六、私は、遠い昔、大晦日、除夜の鐘とともに近鉄特急に乗り、翌年に予定されていた結婚の報告を伊勢神宮にしに行きました。これから闘いますと報告しに行つたのです。そんなことを思い出しながら、天照大神の総本山、伊勢神宮に思いを向けました。

今か、今かと待っています。我らの心、苦しい心、苦しい心を解き放つのを、今か、今

かと待っています。解き放たれていくのを待っています。

もういいです。はい、私達の苦しみはもういいです。もういいです。

私達も、もう本来の自分の世界に帰ります。温もりの世界へ帰ります。

アマテラスの意識が伝えてくれました。アマテラスの意識が伝えてくれました。

伊勢神宮に祀られているすべての意識達よ、今こそ、温もりの温かい優しいあなたに戻っていくのです。そのように伝えられました。

はい、私達はその思いに素直に従ってまいります。ここを離れてまいります。ここに縛られていた私達の狭い、狭い、苦しい、苦しい、重い、重い心を解き放してまいります。

私達は喜びとして旅立っていきます。温もりの世界へ自ら、その思いをこの心の中に広げていきます。その思いをしつかりと心の中に広げてまいります。

私達は喜びでした。暗い、暗い、真つ暗な世界に、もう私達は閉じ込められなくていいんです。ああ、私達が自由に解き放たれる時がやってきます。嬉しいです。心の中に安らぎを、温もりをどんどん思い出していきなさい、ああ、そのように伝わってきます。

アマテラスの思いが伝わってきます。

本来のあなた達に戻っていきなさい。本来のあなた達に戻っていくんですよ。私達と次元を超えていくんですよ。

これからの時、どうぞ、どうぞ、ご自分の心の中に温もりを、優しさを思い起こし、そんなあなた達だったことを思い起こしてください。

そこに棲みついている意識達よ、どうぞ、ご自分の心の解放に努めていってください。

七七、私は私に目覚めていく喜びを、今、心に感じています。

目覚め、はい、私の中でその目覚めがどんどん起こっているのを感じます。

アルバートへ心を向けること、宇宙へ心を向けること、私の中で喜びとしています。ああ、そうです、アルバートを思い、宇宙を思うこと、そして、私を思うこと、喜びを心の中に広げていくこと、それが私の喜びでした。

私は喜びでした。心の中が広がっていきます。私の世界は広がっていきます。これから

二五〇年の間、私は、この世界とともに歩んでいくことを、今、感じています。

ありがとうございます。田池留吉という肉が、今世、私の目の前に現れ、私の肉を通して伝えていただきました。私は、その田池留吉の思いを、今、心にしっかりと感じています。はい、アルバートに心を向けなさい、田池留吉がそのように伝えてくれました。

私のアルバートへの思いは、とてもとても強いものがあります。

アルバートを求めてきた意識達、その意識達が、今、私を通して語っている、私の世界を語っています。

私達は喜びです。喜びの思いを、はい、宇宙へ流してまいります。

宇宙が変わっていく、今世を境に変わっていくことが喜びです。お母さん、お母さん、母なる宇宙、私の中に母なる宇宙への思いを感じます。

七八、母を思い瞑想をする、田池留吉を思い瞑想をする、アルバートを思い瞑想をする、宇宙を思い瞑想をする、次元移行を思い瞑想をする、みんな、みんな同じ、みんな、みんな、そこにあるのは喜びだけです。

だから瞑想は喜び。思う、思えることがもうすでに喜び。

ありがとうございます。本当にありがとうございます。こんな時間と空間の中に自分をいざなうことができ、本当に嬉しいです。

欲の限りを尽くしてきたことが心に感じられます。それでも、私はこうして幸せな時をいただいています。そして、今、元気で生活できていることが不思議だけど、ありがたいです。心に湧き起こる喜び、幸せは、間違いなく変わることなく私に伝え続けてくれます。苦しみ続けてきた私の心に、一つ灯り、二つ灯り、そして電撃的に灯り、もう決して消えることのないものになりました。

私は、その灯りの中をただただ進んでいけばいいのです。眩まばゆいほどの明るさが、私を待つてくれている、そんなことを感じながら、今日もまた瞑想をする時間をいただきました。ありがとうございます。

七九、私は、私の勉強を可能な限りして、今のこの肉を置いていく思いでいます。これは何も今に始まったことではありません。しかし、最近は特にその思いが強くなりました。

瞑想の中で、私は私の思いと出会っています。肉では推し量ることのできない決意を持って生まれてきたこと、そして、今語ったように、可能な限り、私は私の勉強をして、この肉を置いていく思いでいること、これらの思いが肉の私に響いてきます。

肉は、ただその思いに沿っていけばいいんだと思えるようになりました。

田池留吉がその肉を通して、波動の世界を伝えてくれました。

私には、やはりあのセミナー会場における反省と瞑想の時間、つまり現象の時間がなくてはならないものだったことを、今、瞑想をする時間の中で確認しています。

あの時間と空間があったから、私は、田池留吉の指し示す方向にきちんと自分の心の針を向けることができたのです。

もちろん、私にもグラツと大揺れの時期はなかったとは言いませんが、それも無事通過し、今に至っていることを喜んでいきます。

あの時期、私は、田池留吉のこの学びに対する厳しさと優しさに触れさせていただきました。その時期を境にして、私は自分の本来進むべき道をまっしぐらに突き進んでいったのでした。

そして、これは今世のこと。来世もまた、私は田池留吉、すなわち、アルバートにグラツと大揺れの時期に救いの手を差し出されるのです。

そう思うと、何かとても嬉しいです。グラツと大揺れの時期をバネに、大きく羽ばたいていける、ピンチを見事にチャンスに変え蘇る、その手ごたえを来世の私は再び、自分に用意しているのです。

八〇、今日の瞑想の中で心に浮かんできたこと。

実況中継をしたい。たとえば、田池留吉は今肉を持っています。高齢ですが、元気です。私は、今、肉を持っている田池留吉の波動を感じ、自分の様々な勉強をしています。

田池留吉が、肉を持っているときに流す波動、まさに肉を離そうとするとときに流す波動、離れたあとに流す波動、どのように変化するのか、実況中継を通じて、私の勉強がしたい、ふとそう思いました。

そういう一連のことが自分の心を通過していけば、意識の世界が私の中で、またひと味もふた味も違ってくると思います。

より現実味を帯びて、自分自身が肉を持っている間、肉を離してから、再び肉を持つてくるまでの地球時間の二五〇年が自分に迫ってくる、ワクワクしながらズーンと迫ってきます。

もうそういう勉強が可能だと思います。また、そういう勉強をしていかなければならない、していくべきだ、そんなことを感じました。

誰その意識、何かの意識、田池留吉のメッセージ、そういうものを受けつつ、しかしそういうところに留まることなく、意識の世界を進化させていこう、そう伝わってきます。

田池留吉が肉を持っている間に、その死後を語り、その内容、波動と、実際にそうなったときに受ける内容、波動とが違うのか、同じなのか、自分の心で確かめていったならば、それは、それは大変、大変いい勉強をさせていただけだと思います。

田池留吉の肉があるからこそ感じていける意識の世界の幸せと喜び、肉がないからこそ感じていける意識の世界の幸せと喜び、それを私の中で味わっていける幸せと喜び、すべては意識の世界の出来事、心でしか分からない世界を感じながら、肉の時間を重ねていけば幸

せだ、そう感じます。

八一、決意の大きさ、強さ、頷けます。やはりそうでした。今世という時を絶対に外してはならない、外すはずがない、田池留吉の肉と出会い、学びをするにあたり、すべてを整えてきたこと、みんな、みんな納得です。

そして、納得すればするほど、真実の意識の世界が肉を持って三次元にやってきた、これは、何度も何度も私の心から出てくる思いでしたが、それをピツタリ正確にとらえていなかった私を感じました。

もっともその私というのは、愚かな肉です。中の私はもうそんなこととつくの昔に知っていますと返ってきます。

だから、肉に何度も、何度も伝えてきたでしょうとも返ってきます。

私が、どれだけ今世という時を待ち望み、どんな思いで、今世という時に照準を合わせてきたか、肉よ、もつと私の心を知ってくださいと伝わってきます。

その思いはとて大きなもの、強いものです。しかし、決して、私は私に咎められてい

るのではなく、ただ淡々と瞑想をして、私の思いを知ってくださいというものです。

ただ、やはり、私の肉は、田池留吉の眼力の確かさに驚いています。

ところで、今、掲載の10の質問、答えてみましたか。即答してください。時間をおいて考えるものではありません。即答です。現状把握、大切なことです。

八二、田池留吉が肉を離れたあとの世界、今あなたの心で感じてみてください。

私は田池留吉という肉を捨てました。今、そのところから私の意識は語ります。私は、今、田池留吉という肉を捨てたことを心に感じています。

そして、私はこの思い、この波動を伝え続けます。

どうぞ、私に心に向けてみてください。田池留吉の意識がどのような状態であるのか心で感じていただきたいと思います。

私の思い、波動は、心に伝わっている通りです。今、あなたの心に伝わっている通りです。私は、肉を離れたあとにもこのように語ってまいります。

私に聞いてください。田池留吉に聞いてください。アルバートに聞いてください。田池留吉、アルバートは一つの世界から、あなたに伝えていきます。私の思いを、どうぞ受けていってください。

私はいつもあなたに語っています。私は肉を離れたあとにも、このように語っています。今と全く同じです。私が肉を持っていても持っていないなくても、心に向け、私と交信していただけることを信じています。

心を私に向けることを、ただ、してください。私はあなたに語っています。私の意識の世界を、心で感じ、その波動を心で受け、あなたのお勉強に役立ててください。きっと、きっと、あなたのお勉強に役に立ちます。心からそのように思います。

私は、今、肉を捨てたところから語っています。

現実には、私の肉はまだあります。はい、しかし、私は肉を持ちながら、自分の肉を離れたあとの世界から語ることができます。私は意識だからです。

八三、来世、アルバートとの出会いから、約五十年の時間もさることながら、今の肉を置き、肉のない間の私の状態を具体的に心で感じていく方向に勉強を進めていきます。

今、田池留吉の死後の世界と交信すること、今、田池留吉の死後の世界と私の死後の世界とが交信すること、そしてそれは、次元移行を果たした私が今、私に語ってくることによ
り、具体的になってくるという感じですか。

それらの勉強を通して、意識の世界をより具体的に心で感じていくと思います。

実践あるのみ。淡々と、しかし、私は今世の肉を持ってする勉強を必ずクリアします。それが次元移行をより効果的に遂行していくのだと感じます。

八四、肉を伴わない田池留吉の世界、肉を伴わない田池留吉の世界と私の世界、そして次元移行後の私、それらを思い瞑想をしています。

田池留吉からは、あなたの肉があってもなくても私を思えばいいだけですと伝わってきます。

真実に繋がる道があなたの心についていますとも伝わってきます。だから思えばいい、思えば響いてくる世界があるでしょうと伝わってきます。

私は、自分の今の肉を離しても、そこに存在する私を感じているのです。私は私を思うことができます。その私を思っていけば、必ず温もりが響いてくるのです。苦しさや暗さも響いてくるけれど、それ以上に温もりが響いてくるのです。その自分を思えることが、田池留吉、アルバートを呼ぶことだ、私は、そんな感覚を瞑想の中で感じています。

温もりの中で、思うことが仕事をすること、思うことがエネルギーを放出していくこと、次元移行後の私から伝わります。

大筋ではこの通りだと思えます。私は、決して固まった状態ではないけれど、これから、瞑想を重ね、自分の状態をさらに確認していきます。

八五、父の場合は、こちら側から呼びかけると反応します。ふうつと温もりを感じて、自分が緩み一息つけるといふ状態です。呼びかけを喜びます。

しかし、自分で自分を思えません。自分が自分を思うと、苦しみが覆いかぶさってきます。

つまりは、固まった状態です。

私は自分の肉を離れたあとを心で感じています。私は私を思えます。自分を思えるのです。苦しさや暗さも来るが、それ以上に温もりが来る、私はそんな状態です。

温もりが来るということは、私は自分の中に温もりがあることを感じているということ、そして、それは、田池留吉、アルバートの世界と通じているということなのです。

田池留吉、アルバートと言葉はないけれど、私の思いは、田池留吉、アルバートを呼んでいます。呼べば、思えば、通じる状態にあります。

だから、私は、肉のない状態であっても、決して固まることはなく、今、肉を持っていてのと同じように、苦しさや暗さに温もりを伝えていくことができる、つまりは自分を包んでいくことができる、田池留吉、アルバートとの交信をしている、私は、自分の死後を、そう感じています。

だから、自分の死後を思い、瞑想をすれば何とも言えない嬉しさを感じます。思う、思えることが喜び、そのエネルギーが意識の世界に流れ仕事をしていくんだ、ともに仕事をしていく、ということが心で感じられます。

八六、肉を無くしたあと、田池留吉、アルバートと交信をするということは、自分自身も温もりであるということ、心の中に感じているからこそできる。

私は温もりだから、温もりのほうに思いを向ける。そのほうというのは、田池留吉、アルバート、母の温もり、母の安らぎの中にある私。それを私は、心に感じます。

私は私を呼ぶ、私は私を思う。これまでの転生の中で、肉を捨てたあと、私が戻っていた世界とは全く違います。

今世の肉を持った学びを経て、私は、今、私を語っています。私の死後を語っています。全く違います。

これまでは肉を捨てたあと、私は私を思う間もなく、地獄の奥底に真ッ逆さまでした。自分のエネルギーで私は身動き一つ取れなかった。

暗黒の世界、暗黒の宇宙、その重い、重い、暗闇の寂しい中に私はあったことを感じました。

ああ、しかし、今、私は、今世の肉を経て、自分の死後を感じています。

私は私を呼ぶことができる。私が私を呼べば、温もりの私が応えてくれる。

そうですよ、あなたは温もりですよ。そう伝わってくる思いを感じます。私はそちらのほうにどんだん思いを向けていきます。

ああ、これが、私が今世肉を持って学びをしてきた一つの結果だと言えます。私は、今、死後の世界から語っています。私は、私を思えることがただただ嬉しいです。

八七、そうです、私は肉を無くしたあと、自分の心の中に感じる苦しさ、暗さをどんだん温もりのほうに向ける。はい、また苦しさ、暗さを感じる。そして、それを温もりで包んでいく。そうやって、私は、私の意識の世界を動かしていきます。

はい、そうやって、私の意識の世界は動いていくんです。今、心に感じます。

あつという間の地球時間でいう二五〇年でしょうか、その時間が経っているのです。はい、私は、ある時期に肉をいただきます。

はい、心に感じているように、私に肉をくださいと母に申し出ます。

母となる人に申し出ます。私に肉をください。私はタイミングを見計らって、今、今、私

に肉をくださいと、母に願い出るんです。

私の意識の世界は流れています。自分を呼び、自分を思うことをしています。暗さ、苦しさを自分の中の温もりで包みながら、私の意識の世界は流れています。そして、私は、自分に肉を持たせます。

はい、自分に肉を持たせる、その時の思いを、今、語ります。

私は、今、肉をくださいと母に願い出ました。私に肉をください。私はこの肉を持って、もう一度、形ある世界に自分を出していきたいんです。そして、私は、形の世界から自分を徹底的に見つめます。

そしてそのエネルギーを、私は、形の世界に噴射していく。このエネルギーこそ、喜びのエネルギー。はい、そのエネルギーが形を持たなければ、この三次元は次元移行ができません。私はそのような思いで、母に願い出ます。ああ、そうなんです。私がこの次の肉を持つその思いは、三次元の中の形ある意識達に、ともに次元移行をしていこうと呼びかけるために、私は肉を持ちます。すべて計画通りです。

私のこの肉から噴射されるエネルギー。

はい、喜びのエネルギーを流していくために、私は、肉を持たない間、自分の中でしっかりと自分を見つめ、苦しさ、哀しさ、辛さ、そういう暗い思いを、自分の中の温もりで、どんどんどんどん優しさに変えていきます。

そして、ある時期を見計らって、私に肉をくださいと母に申し出るんです。はい、そのすごい計画を、私の心は感じていきます。

八八、瞑想をすれば、私の現実が心に響いてきます。

ああ、私はこの中にあるんだ、そう思えば思うほどただただありがたいです。

本当に初めから幸せでした。数え切れない転生の結果、このように自分を学ばせていた
だいて、本当に嬉しいです。

気張らなく、頑張らなく、流れるままに、自分を感じていける私があることが嬉しいです。
自分を大切に思えることが嬉しい。自分が愛しいから嬉しい。

私はみんな知っていました。瞑想をすれば、その思いが心に響いてきます。

だから、私は幸せです。

そんな幸せな私と出会うために、これまでの私があったこと、そして、さらに、自分を知っていくために、これからの私があったこと、探し、探し求めてきた真実の波動が私の心に伝えてくれます。

温もりなんか要らない、そう叫び続けてきた私を本当に知ったことが、私の喜びでした。愛は消えることはありませんでした。私は私を思っていればいい、ただそれだけでよかったのです。

八九、次元移行を果たした後の私から私へのメッセージ。

私は、次元移行をした意識です。はい、喜びで、喜びで、喜びで心を見つめていってください。あなたの意識の世界を喜びで見つめていくんです。心を大きく、大きく開いていってください。あなたの口を通して語っていく私を信じなさい。あなたの意識の中で、私はいつも語っています。私は次元移行をしたあなたです。私があるの中で語っているんです。喜び

という思い、喜びの波動、その波動をもっと、もっと信じていってください。

心が広がっていきますよ。優しい、優しい温もりの中にあなたがあります。そのあなたを、もっと、もっと信じていくんです。もっと、もっと信じていくんですよ。

私は次元移行をしたところから語っています。

私の意識の広さ、温かさ、優しさ、温もり、はい、心で知っていきなさい。あなたなら、知っていきます。今世の肉を通し、あなたは自分をもっと、もっと知っていくんです。私をもっと、もっと知ってってください。

私は今、次元移行をした先から語っています。

私の思いを受けていってください。どうぞ、受けていってください。

はい、大きく心を開いて自分自身を見つめていったとき、あなたの心の中にはまだまだ暗黒の世界が広がっていくのが分かるでしょう。しかし、それは暗黒ではありません。あなたが感じているように、優しさ、温もりの世界なんです。喜びの世界なんです。それを私は愛と伝えました。愛なんです。すべてが愛なんです。次元移行をした私は、あなたに、今、愛の思いを伝えています。この波動を伝えたい。どうぞ、しっかりと心で受けていってください。

い。心を見つめていくこと、はい、瞑想をする中で、あなたはあなたをしつかりと見つめていくことです。喜びが湧いてきます。心の中から私が湧いてきます。私は愛、私は愛、私は愛、愛、愛、愛、この思いを受けていってください。

九〇、アルバートのメッセージ18にすべてまとめられています。

次元移行という意識の流れを遂行するために、肉を持った、持つ、明確な促しの中で、淡々と喜びで進んでいくだけです。

厳然とある意識の流れを心で受け、感じていける喜びは、私の中で何も変わっていません。今世の出会いから目覚め、そして進化、意識の流れの中で淡々と喜びで遂行されてきました。これからも淡々と喜びで遂行されていきます。

瞑想をすれば、心に湧き上がってくる世界があります。何とも言えない世界です。私はその世界をどんどん進んでいけばいいだけです。

私は愛、そう伝えてくれた私の思いを心でしっかりと受け止めて、瞑想を続けます。

※2 (アルバートからのメッセージ18)

アルバート、私は、今、次元移行をした後の私からのメッセージを聞きました。そして、瞑想をしました。

あなたの目を見て、遠い昔、懐かしいあの時のことを思い出し、私は自分の心の中から思いが、一気に噴き出してくる体験をするけれど、それは、私は、生まれる前から、あなたとずっとこの心の中で交信をし続けてきたからなんですね。

それが私の心に響いてくるんです。今、目の前にいるあなたと私は、生まれる前からずっと交信をしていた。だから、私は私の思いを語っているうちに、私は私でなくなることを感じています。互いに今、形はあるけれど、私達はそうじゃないことを知ります。私達には、時間も空間もなかった、あなたは私で、私はあなただった、そう心は叫びます。

次元移行をした私を私は感じるとき、本当に私達は一つだと感じます。私は愛、そう伝えてくる私を今、心で感じています。

私は、アルバートです。肉のない田池留吉と、肉のあるあなたが交信をすること、肉のない田池留吉と肉のないあなたが交信をすること、このことを通して、さらに心を見ていってください。田池留吉は次元移行を伝えるために、三次元にやってきました。そして、もう一度、肉を持ちます。あなたは、田池留吉の次元移行のメッセージをきちんと受けるために、肉を持ちました。そして、もう一度、肉を持ちます。

私達の再度の肉は、次元移行の実行です。

あなたがあなたに次元移行を果たした後のメッセージを送ったように、私達は一つです。あなたは、瞑想を通して、一つという思いをさらに深めていきなさい。田池留吉がなくても、あなたの肉がなくても、私達はいつもともにあります。

九一、大きな赤文字「愛」を思い、語ります。

三次元に転生してきた意識達は、この愛が分かりませんでした。愛を求めて、求めて、求めて、求めて、三次元に来たけれど、やはり愛が分からなかった。分からなかったんです。

すごいパワーです。はい、私の中に響いてきます。

言葉では、淡々と語っていますが、私の世界は広がっていきます。すごい力で、広がっていくのが分かります。そこには、何もありません。何もないけれど、あるんです。私があります。これが私なんです。これが私なんです。私は、それを、今、感じています。

田池留吉、アルバート。私はこの心で知っています。私は次元移行をするためにやってきました。次元移行を伝えにきてくれたあなたとともに、私は、この思いを伝えていく意識なんです。

お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

私は、あなたに伝えていただきました。

「お母さん、ありがとうございます。田池留吉、アルバートへ、母なる宇宙へ帰りましょう。」

私はそのように伝えていきます。心の中より伝えていきます。私は、淡々と伝えていきます。私の中に喜びが大きくなっていくのが分かります。淡々と伝えていく喜びは、大きな喜びのエネルギー。そのエネルギーがこれから仕事をしていくことを感じています。

肉は愚かです。しかし、私は私の世界を感じています。ともに歩いていこうと、田池留吉、

アルバートが伝えてくれることを、私は日々感じています。

ああ、私は喜びです。瞑想をするたびに、私はこの世界を感じています。

しかし、私はまだまだこの中に、暗黒の世界もしつかりと抱えています。そのことを私は私にこれからしつかりと伝えていかなければなりません。

ああ、こうやって、私は私を包んでいく道を歩みながら、しつかりと自分の果たすべき仕事をしてまいります。

次元移行へ、大きな、大きな歩みを進めてまいります。

今世の私は、そのために肉を持つてきました。ありがとうございます。自分の果たすべき役割をしつかりと果たしていきます。私はこの世界を広げてまいります。

田池留吉、アルバート。ありがとうございます。心の中から、その思いが湧き上がってきます。どんどん湧き上がってきます。

私の中にそのエネルギーがあるんです。このエネルギーは止めることはできない。もう、もう、止めることはできません。

私はこの地球を思っている。宇宙を思っている。ああ、すべてが私の中にありました。喜びの中に私がありました。すごい、すごいエネルギーを感じます。愛という文字から、私は

この思いを伝えさせていただきました。

ありがとうございます。心よりありがとうございます。

はい、私は、今、肉を持ちながら田池留吉、アルバートの世界に心を向けています。

しかし、私は、この肉を離れたあとも、今語ったような世界に、自分の思いを向けて、自分を語っていきます。自分の中のエネルギーを、どんどん噴射していきます。

この喜びのエネルギーを宇宙に流していく、私は自分をそのように語っています。

私は肉無きあとも、このように田池留吉、アルバートとともに思いを向けてまいります。宇宙へ思いを向けていく私の喜び、ああ、今、心に響いてきます。ありがとうございます。

心して、これからの自分を見つめてまいります。自分の行く先、行く道をしっかりと見据え、私はこの肉を終えてまいります。肉無きあと、ああ、今、喜びを語ったように、この思いを、どんどん広げてまいります。そして、必ず次元移行を達成してまいります。

九二、私の死後を思いました。

はい、私にはもう肉はありません。私は今、私を語ります。肉のない私は私を語れます。私は肉がないけれど、このように語れる私があります。語るということは、私はここに存在していることを感じるからです。

私は私を感じる事ができます。そして、私が思うのは、私なんです。私は私を思います。そうした時に、私の中に出てくる思い、感じる思いは、はい、寂しさがまずきます。しかし、その寂しさを感じ始めたとき、それとともに、とても柔らかな思いを感じるんです。柔らかな思いがその寂しさを大きく包んでくれます。はい、それはどちらも私なんです。私は私をそうやって、語っていくんです。寂しいなあという思いと、柔らかな温かな私があるよという思い、私は私に語ります。

そうしているうちに、ふと、私はまた自分を思います。

もつと、もつと、苦しい思いが出てくるけれども、またその思いとともに、温かな思いも、ともに感じるんです。私はそうやって、しばらく、ともに私を感じていきます。

そして、私はこの心の中をもつと、もつと、見るようにしていたことを思い出します。たとえば、温もりを感じるとき、これは私なんだ、ああ、これが私なんだ、ふとそう思うと、

嬉しい思いが広がっていくのを感じます。

嬉しい思いが広がっていけば、さらにその思いを思うのです。

また、その思いを思えば、さらに嬉しさが広がっていきます。

寂しいなあ、苦しいなあという思いが、小さく、小さくなつていくのを感じ、これは、私の中からみんな出てきたんだ、ああ、こうして私は、自分を思えることが嬉しい。そのように自分の中で語っています。

私は今、肉を持ちません。しかし、私はこのように語っています。

私は嬉しさを心に広げていきます。私はお母さんと呼んでみます。お母さんと呼んでごらん、そんな思いが伝わってくるからです。

それは私の中から伝わってくる優しさです。私はこの優しさを知っています。懐かしさを知っています。

私は、そうなんです。ああ、ああ、懐かしい。その思いを感じていきます。私はそして、田池留吉、アルバート、その思いを心に感じていくんです。私はひとたび、その思いを心に感じていけば、もう私の中に広がってまいります。田池留吉、アルバート、そう私は呼んでいたことを思い出します。呼んでいました。心を向けなさい。心を向けていこう。そんな呼

びかけを私はしてまいります。

肉をなくしたあとの私が、今、私に語ってくれました。

私は今、自分の死後を思っています。死後の私を思っています。

私は、自分の中に温もりがあったことを思い出します。温もりが私だったことを思い出しています。初めは、寂しいなあとか苦しいなあとか、そんな思いが自分の中に広がっていきけれど、私はその思いとともに自分の中の温もりを思い出していくんです。この温もりが私だったことを思い出していきます。そうすると、私は、その温もりのほうにこの私を向けていきます。温もりの中にどんどんどんどん入っていくという感覚です。

はい、私の中に温もりが広がっていきます。温もりが私なんだ、私はそのように、今語っています。

私はこの温もりが私なんだ、そう思い出した途端に嬉しくなっていきます。

お母さんが出てきます。お母さんが出てきます。

ああ、もちろん、懐かしい思いも出てきます。田池留吉、アルバートと呼んでいた懐かしさ、その懐かしい思いが心に広がっていきます。

私は、田池留吉、アルバートを心に呼んでいけることを今、伝えます。

心に呼んでいけるんです。心に呼べば、私の中に温もりが広がっていく。優しさ、喜びが広がっていく。

私は、この優しさと温もりの中で、自分を見つめていく嬉しさを感じています。寂しい私も、苦しい私も、この温もりの私を包んでいく喜びを伝えてくれます。今、私は肉を持たずに、自分を感じていける喜びを私に伝えていきます。

肉のない私から私にメッセージが来ます。

「もつと自分を信じなさい。」

その人、田池留吉 第3巻 (ホームページより)

2011年10月30日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2011 Printed in Japan